2027年3月期 第2四半期
決算説明資料

2026年11月11日

ダイワボウホールディングス株式会社

（証券コード：**3107**）

目次

1．2027年3月期 第2四半期決算（中間期） _P 2

2．ITインフラ流通事業 _P13

3．産業機械事業 _P22

4．2027年3月期 業績見通し _P24

5．株主還元 _P29

【参考資料】 _P31

- ➤ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ➤ 事業概要
- ➤ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ➤ 業績推移グラフ

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2027年3月期 第2四半期決算（中間期）

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

連結決算ハイライト

2027年3月期第2四半期（2026年4月1日～2026年9月30日）

サーバー・ネットワーク等の大型案件獲得もあり、売上高は前年上期を上回る好業績
好調な受注状況と、戦略的仕入の効果を見込み、通期業績予想を上方修正

上期実績 連結売上高
6,773億円

前年同期比	+3.1%
通期進捗率	49.5%

上期実績 連結営業利益
207億円

前年同期比	△7.4%
通期進捗率	48.3%

上期実績 営業利益率
3.1%

前年同期 3.4%

通期予想(修正) 連結売上高
1兆3,690億円

前期比	+1.3%

通期予想(修正) 連結営業利益
430億円

前期比	△2.6%

期末予想 重要経営指標

ROE	17.0%
ROIC	14.9%

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

連結決算ハイライト

2027年3月期 第2四半期 総括

HDグループ

- ❑ サーバーやネットワーク等の大型案件、利益安定化を目的とした戦略的仕入の促進、AI関連の新しい需要の取り込み等、PC販売台数に依らない収益基盤を強化
- ❑ 2027年4月1日、新商号「MUSUBITE」「DIS」に向けたブランディング計画を進行中

ITインフラ流通事業

- ❑ GIGAスクールを除くPC単価は前期末から約45%上昇。今後のさらなる価格値上げと底堅い需要を見据え戦略的仕入を継続。サーバーの納期遅延は解消されつつあり、単価上昇も実績に寄与
- ❑ 販売パートナーと協働で進めてきたAI関連の販売促進が奏功し、AI PC・生成AIサービスを中心に需要が顕在化。着実に実績伸長

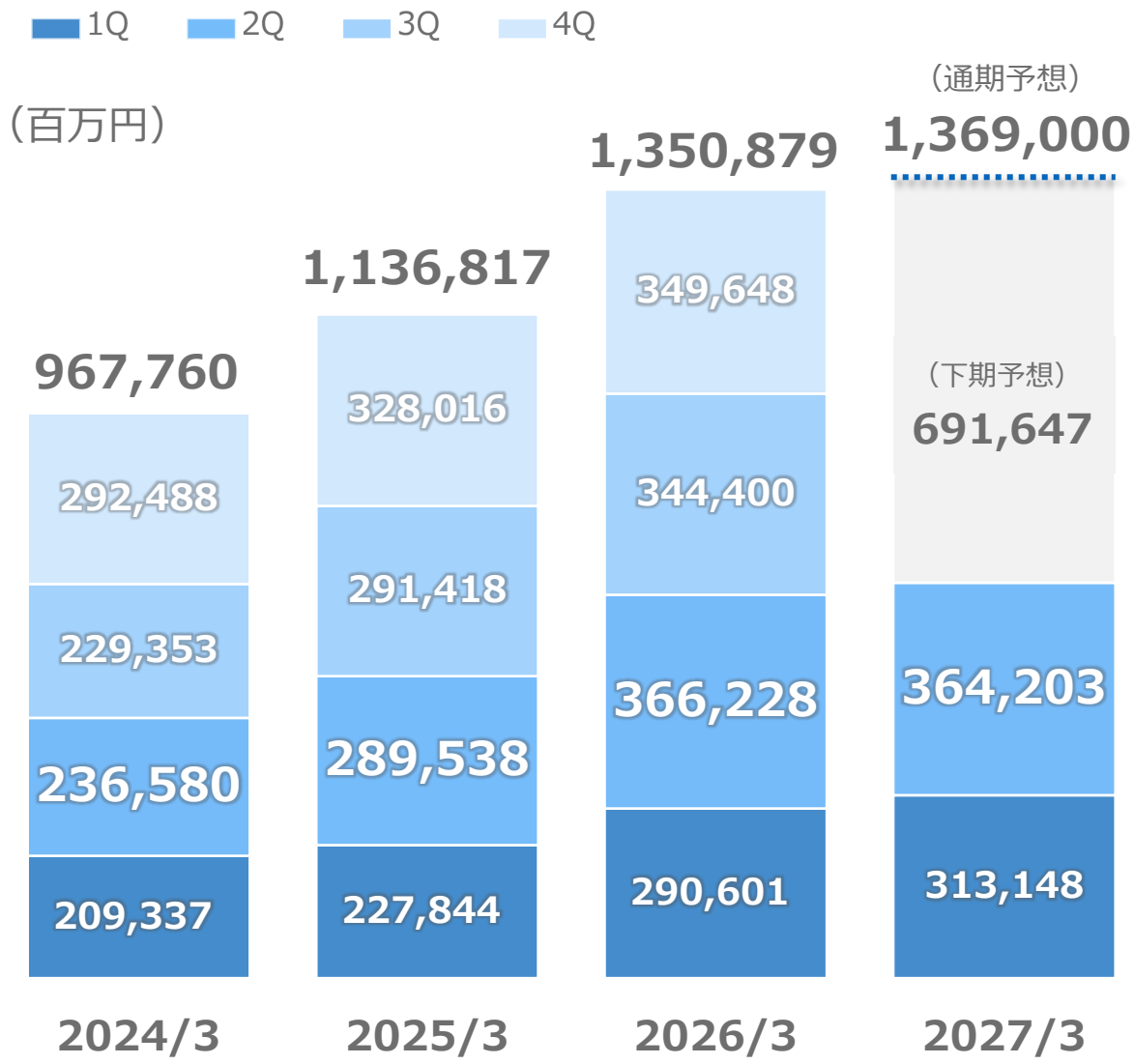
産業機械事業

- ❑ 1Qに続き2Qも、主力の航空機業界に加え、好調な造船・エネルギー業界からの需要を背景に、工作機械部門の受注高が大幅に増加。前期受注案件の売上進展
- ❑ 在庫機の販売促進を強化し、海外展示会でも受注を獲得

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2027年4月ダイワボウホールディングスは、MUSUBITE へ

2027年3月期 第2四半期累計　売上高（4～9月）



売上高　**677,352**百万円

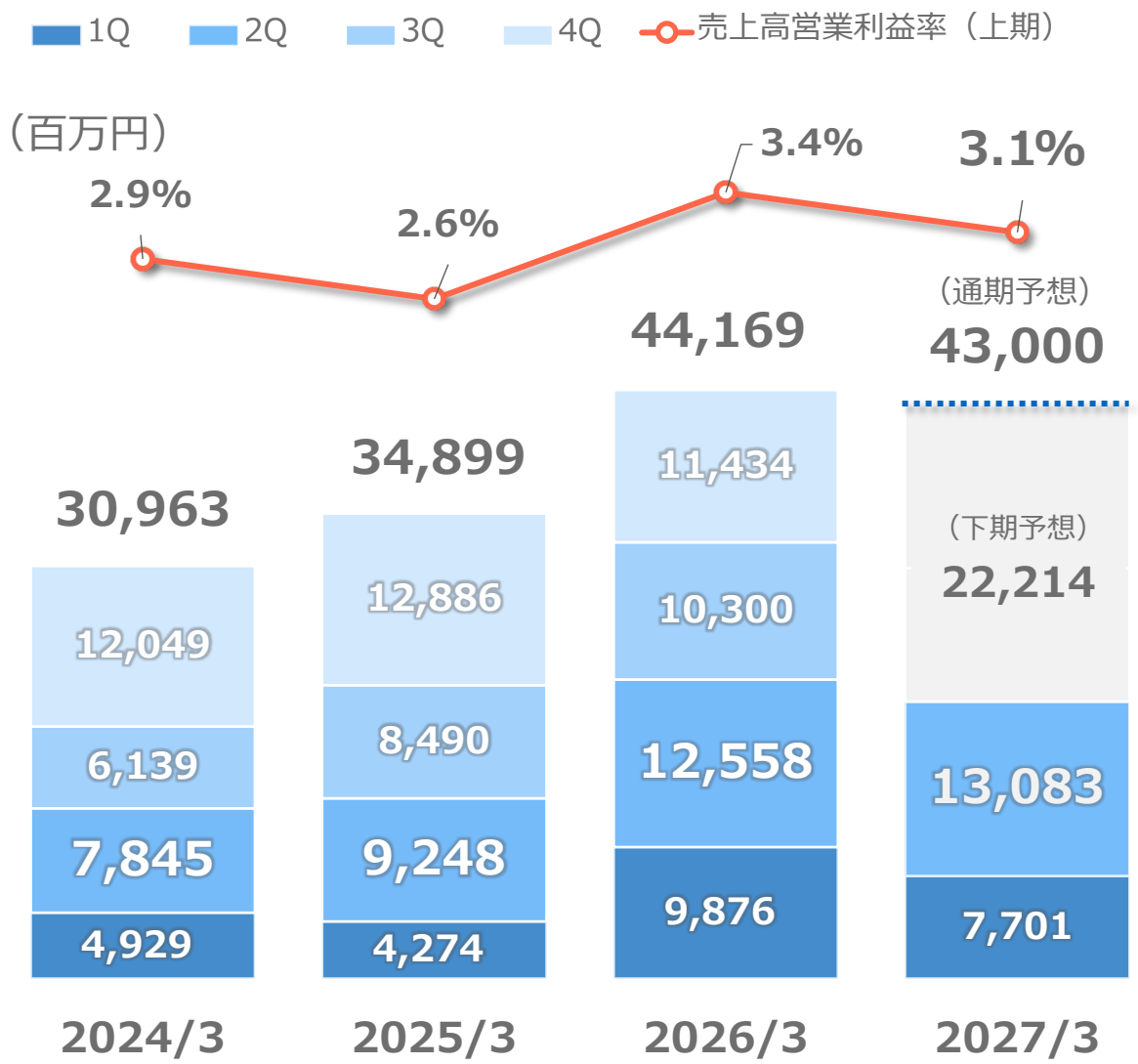
前期比　**+3.1**%

通期進捗率　**49.5**%

前上期記録を再び更新
上期として最高売上高

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2027年3月期 第2四半期累計　営業利益（4～9月）



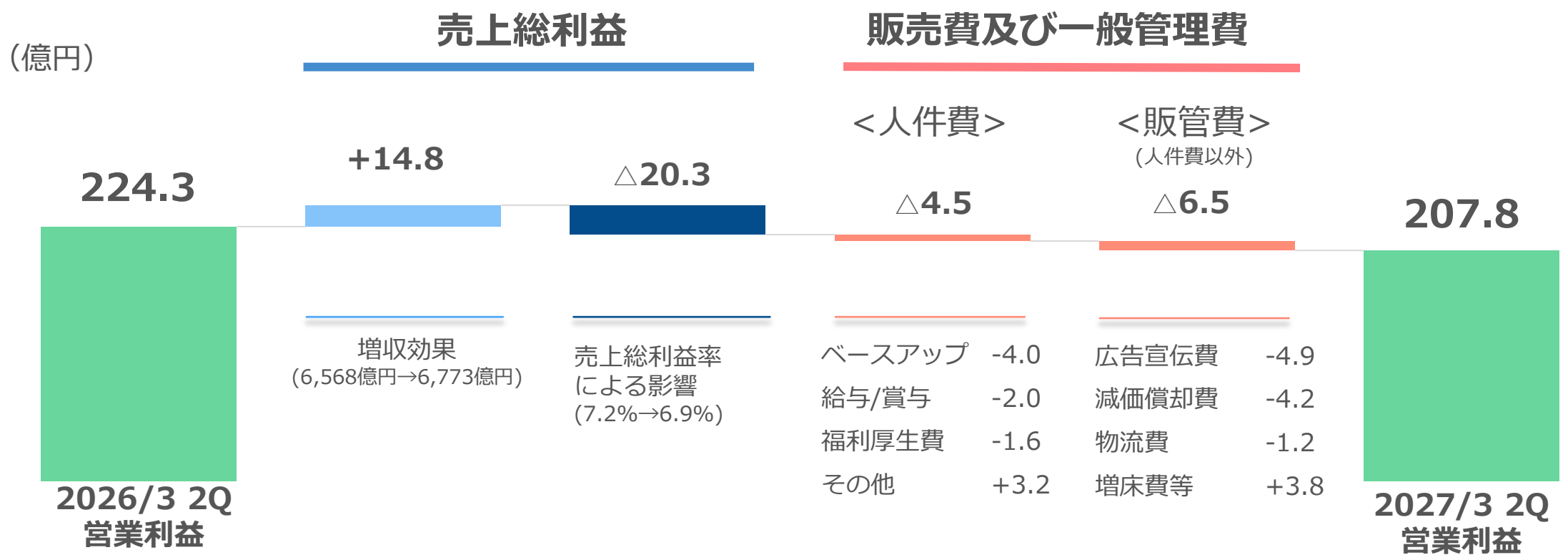
営業利益	**20,785**百万円
前期比	△**7.4**%
営業利益率	**3.1**%
通期進捗率	**48.3**%

上期過去2番目の高水準

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

営業利益推移 第2四半期累計

- 売上総利益率は2Q(7～9月)は7.2%となり1Q(4～6月)の6.6%から改善したが、高水準だった前年1Qからの低下によって△20.3億円の影響
- 販管費はベースアップと、リブランディング活動含めた広告宣伝費等により11億円増加



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2027年3月期 第2四半期 連結決算概況

（百万円）	2026/3 2Q	2027/3 2Q	増減	前年同期比	修正後通期予想	進捗率
売上高	656,830	**677,352**	+20,522	+3.1%	1,369,000	49.5%
営業利益	22,435	**20,785**	△1,649	△7.4%	43,000	48.3%
経常利益	22,608	**20,786**	△1,821	△8.1%	43,050	48.3%
親会社株主に帰属する中間純利益	15,736	**14,572**	△1,164	△7.4%	30,500	47.8%
1株当たり中間純利益（円）	176.04	**168.95**	△7.10			

（百万円）	2026/3	2026/9	増減	主な増減理由
総資産	462,072	**545,556**	+83,483	商品及び製品在庫の増加
純資産	169,829	**175,239**	+5,410	利益剰余金の増加
自己資本比率	36.8%	**32.1%**		

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2027年3月期 第2四半期累計　セグメント別業績

- 売上高は、ITインフラ流通事業でサーバーやネットワークの大型案件獲得、産業機械事業で工作機械の販売が伸長し増収
- 営業利益は、ITインフラ流通事業で売上総利益率が高水準だった前年1Qを下回ったことが影響し減益

（百万円）		2026/3 2Q	2027/3 2Q	率	増減	前年同期比
売上高	ITインフラ流通	649,692	**669,980**		+20,287	+3.1%
	産業機械	7,137	**7,372**		+234	+3.3%
	合計	656,830	**677,352**		+20,522	+3.1%
営業利益	ITインフラ流通	21,843	**19,985**	**3.0%**	△1,858	△8.5%
	産業機械	585	**792**	**10.8%**	+207	+35.4%
	（調整額）	5	7		+1	+29.5%
	合計	22,435	**20,785**	**3.1%**	△1,649	△7.4%

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2027年3月期 第2四半期 連結貸借対照表（決算短信P3-4）

（百万円）	2026/3	2026/9	増減
流動資産	426,508	**508,872**	+82,363
現金及び預金	45,152	**10,708**	△34,443
受取手形及び売掛金	302,472	**337,831**	+35,358
商品及び製品	58,720	**130,979**	+72,259
有形固定資産	12,555	**11,748**	△806
無形固定資産	6,351	**5,777**	△573
投資その他の資産	16,657	**19,158**	+2,500
資産合計	462,072	**545,556**	+83,483

	2026/3	2026/9	増減
流動負債	278,035	**355,861**	+77,825
支払手形及び買掛金	234,698	**268,448**	+33,749
短期借入金	10,904	**56,068**	+45,164
固定負債	14,208	**14,455**	+247
長期借入金	7,465	**7,233**	△231
負債合計	292,243	**370,316**	+78,073
純資産合計	169,829	**175,239**	+5,410
自己株式	△4,288	**△9,805**	△5,516
負債純資産合計	462,072	**545,556**	+83,483

商品及び製品	58,720	→	**130,979**	+72,259	商品在庫の増加
受取手形及び売掛金	302,472	→	**337,831**	+35,358	DISの売上債権の増加
支払手形及び買掛金	234,698	→	**268,448**	+33,749	DISの仕入債務の増加

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2027年3月期 第2四半期 連結損益計算書（決算短信P5）

（百万円）	2026/3 2Q		2027/3 2Q		増減	前年同期比
	実績	率	実績	率		
売上高	656,830		**677,352**		+20,522	+3.1%
売上総利益	47,579	7.2%	**47,034**	**6.9%**	△545	△1.1%
販売費及び一般管理費	25,144	3.8%	**26,248**	**3.9%**	+1,103	+4.4%
営業利益	22,435	3.4%	**20,785**	**3.1%**	△1,649	△7.4%
経常利益	22,608	3.4%	**20,786**	**3.1%**	△1,821	△8.1%
特別利益	270		**590**		+319	+117.8%
特別損失	-		**-**		-	-
親会社株主に帰属する中間純利益	15,736	2.4%	**14,572**	**2.2%**	△1,164	△7.4%

特別利益	物流センターに関連する固定資産売却益、投資有価証券の売却益

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2027年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

（百万円）	2026/3 2Q	2027/3 2Q	増減	前年同期比
	実績	実績		
営業活動によるキャッシュ・フロー合計	6,512	**△69,541**	△76,054	-
投資活動によるキャッシュ・フロー合計	△4,795	**1,528**	+6,324	-
財務活動によるキャッシュ・フロー合計	△8,000	**34,550**	+42,550	-
現金及び現金同等物期首残高	55,221	**43,852**	△11,368	△20.6%
現金及び現金同等物中間期末残高	48,808	**10,408**	△38,400	△78.7%

※11月11日時点で監査レビュー中のため、暫定の数値となります。

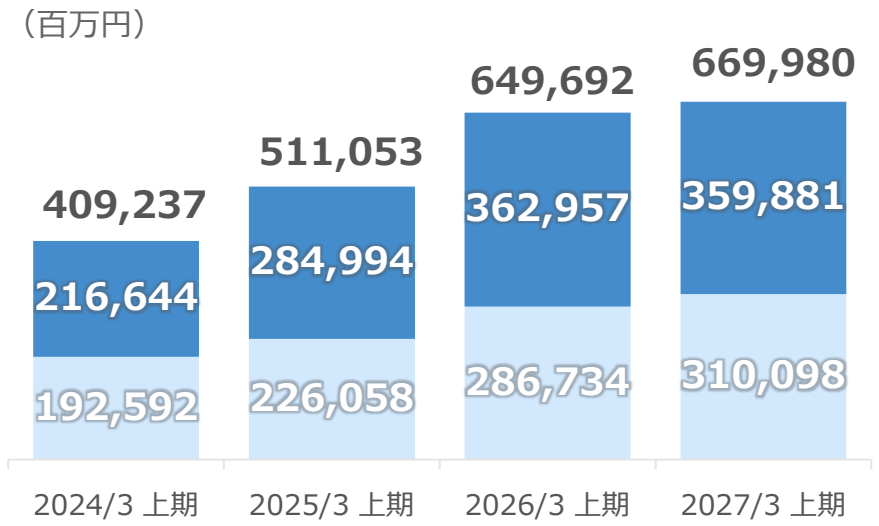
営業活動によるキャッシュ・フロー	棚卸資産の増加等
投資活動によるキャッシュ・フロー	DISシステム構築投資の減少、有形固定資産の売却等
財務活動によるキャッシュ・フロー	短期借入金の増加等

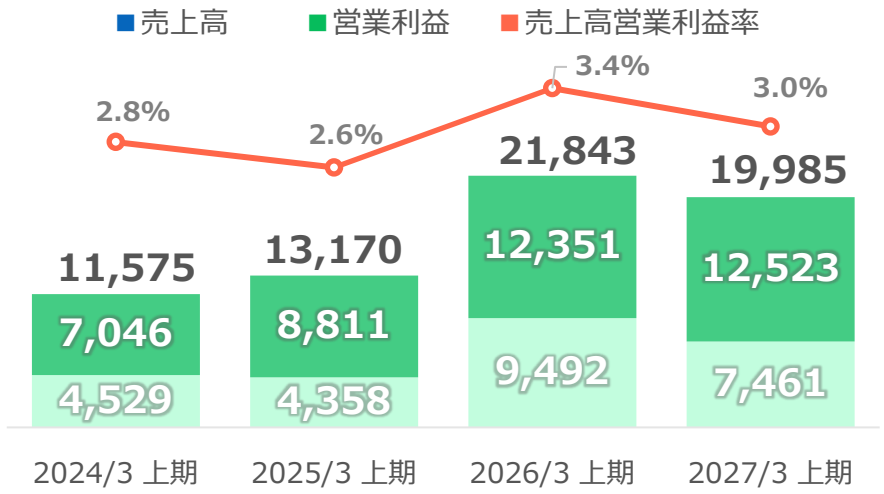
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ITインフラ流通事業

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ITインフラ流通事業





(前年同期比)

取扱高	※旧基準売上高	715,558百万円	(+3.3%)
売上高		669,980百万円	(+3.1%)
営業利益		19,985百万円	(△8.5%)

PC出荷台数	214.4万台	(△31.1%)
サーバー出荷台数	2.0万台	(△26.2%)
iKAZUCHI(雷)取扱高	34,492百万円	(+31.9%)

業績概況

第2四半期(7月～9月)実績

- サーバーの納期遅延が緩和され受注済案件の収益化が進展。1Qに獲得したデータセンター関連のサーバー・ネットワーク大型案件を2Qも継続して売上計上。PC出荷は想定を上回る単価上昇と大型案件の獲得が寄与するも、台数・取扱高は前年2Qから減少。2Q単独で減収
- GIGAスクール向けの出荷は前年2Q比で減少。戦略的仕入の効果もあり売上総利益率が改善し、2Q単独で増益

上期実績

- 大型案件の獲得が売上高を押し上げた一方、PC更新需要の高まりで高水準だった前年1Qからの売上総利益率低下が影響し、上期では増収減益

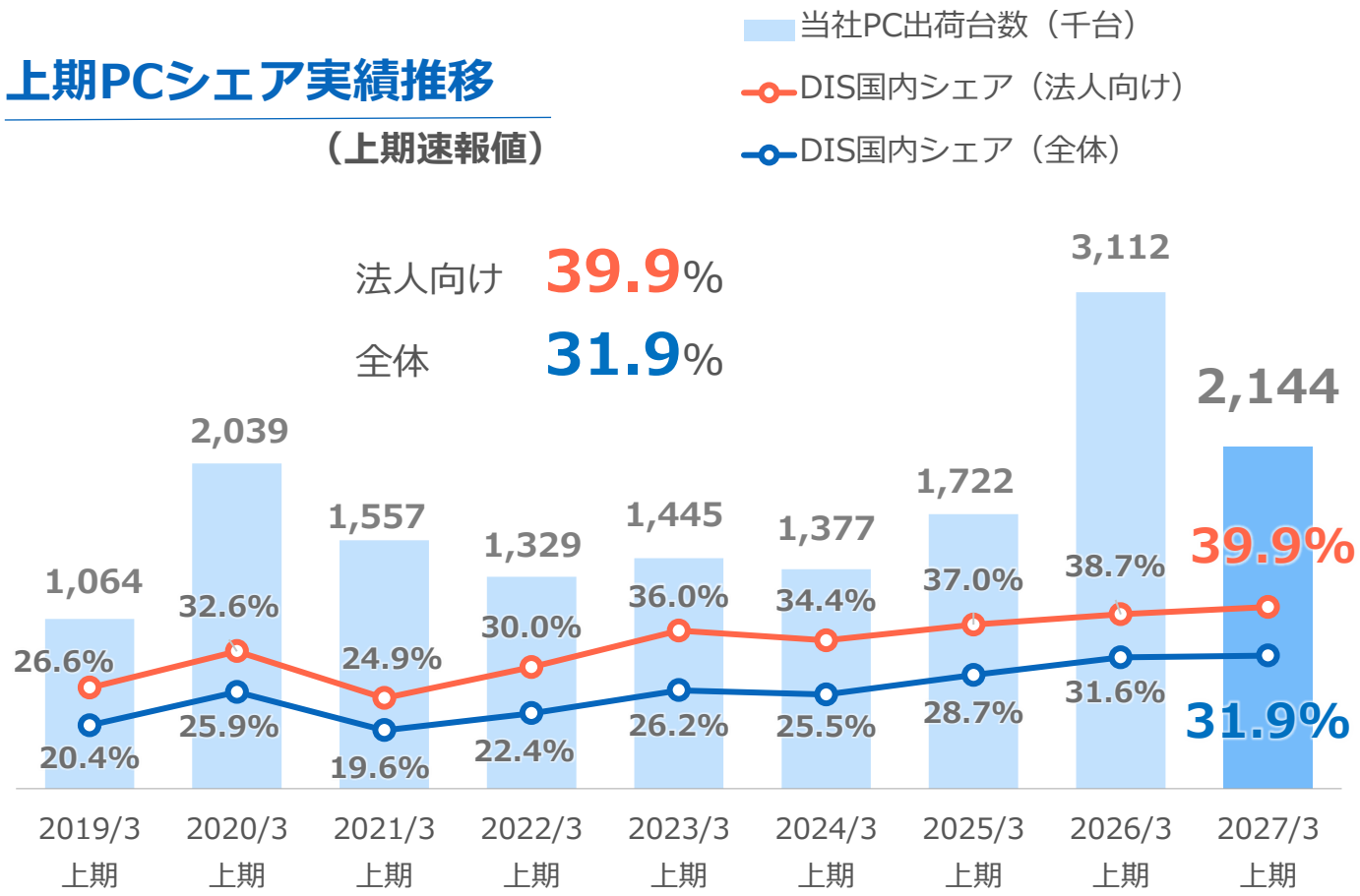
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

国内PCマーケットシェア

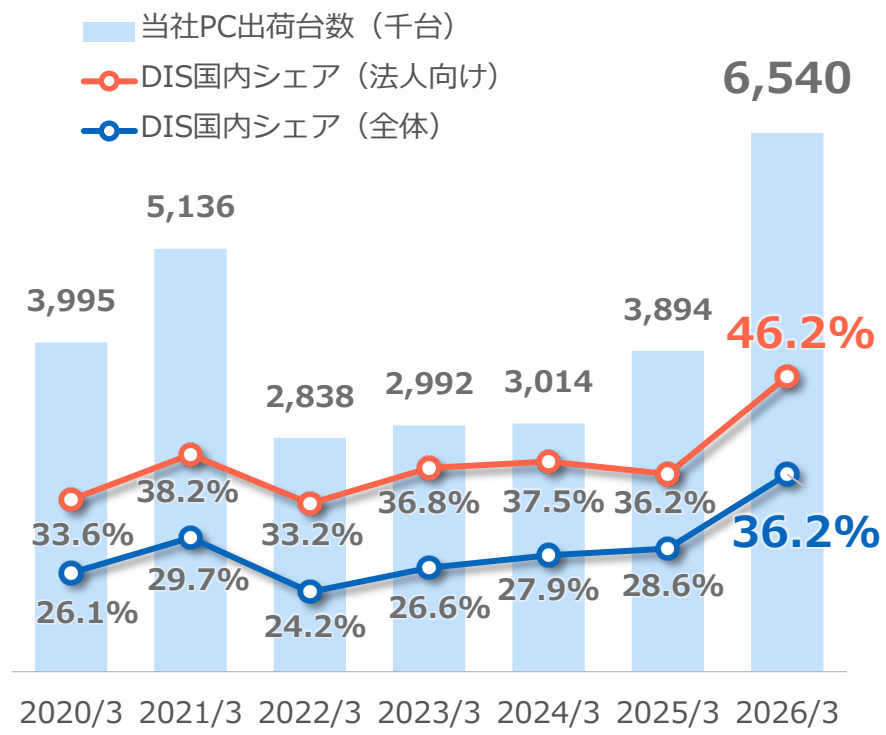
法人利用のPC 3台に1台以上は当社が関与

上期PCシェア実績推移

（上期速報値）



通期PCシェア推移

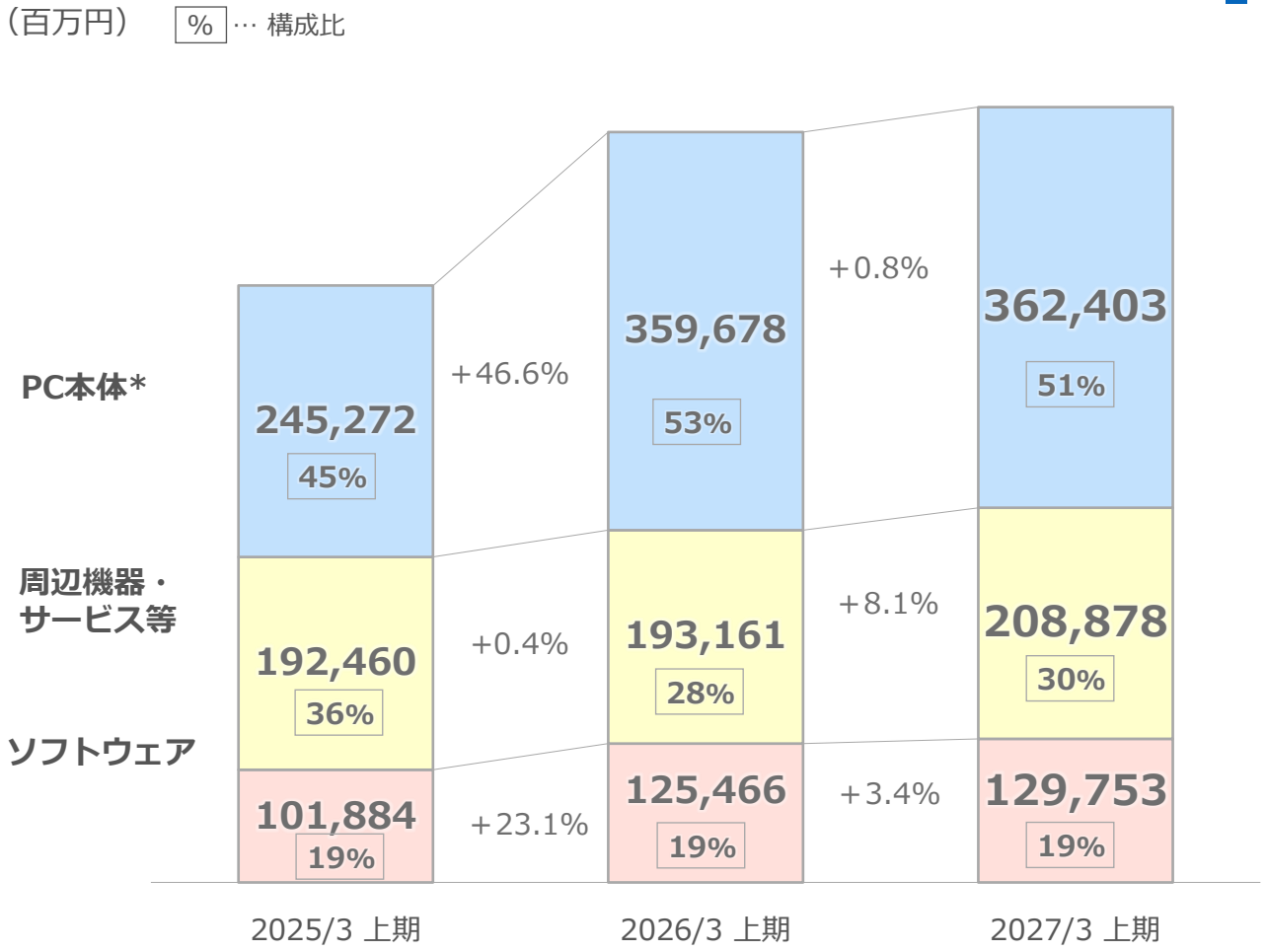


※MM総研調査結果より算出
（2027/3上期は調査会社の速報値をベースにしているため、シェアの公表値を変更する可能性があります）

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

商品カテゴリ別 第2四半期累計 取扱高

＜DISカテゴリ別取扱高推移＞



*PC本体 … PC、サーバー、タブレット、スマートフォン等の端末本体

2027年３月期 第2四半期 ハイライト（前年同期比）

PC本体

- PC … △11.5%
- サーバー … +102.8%

周辺機器・サービス等

- ネットワーク … +30.8%
- ストレージ … +31.4%
- モニター … △12.7%
- その他周辺機器 … △6.7%
- サービス&サポート … +0.4%

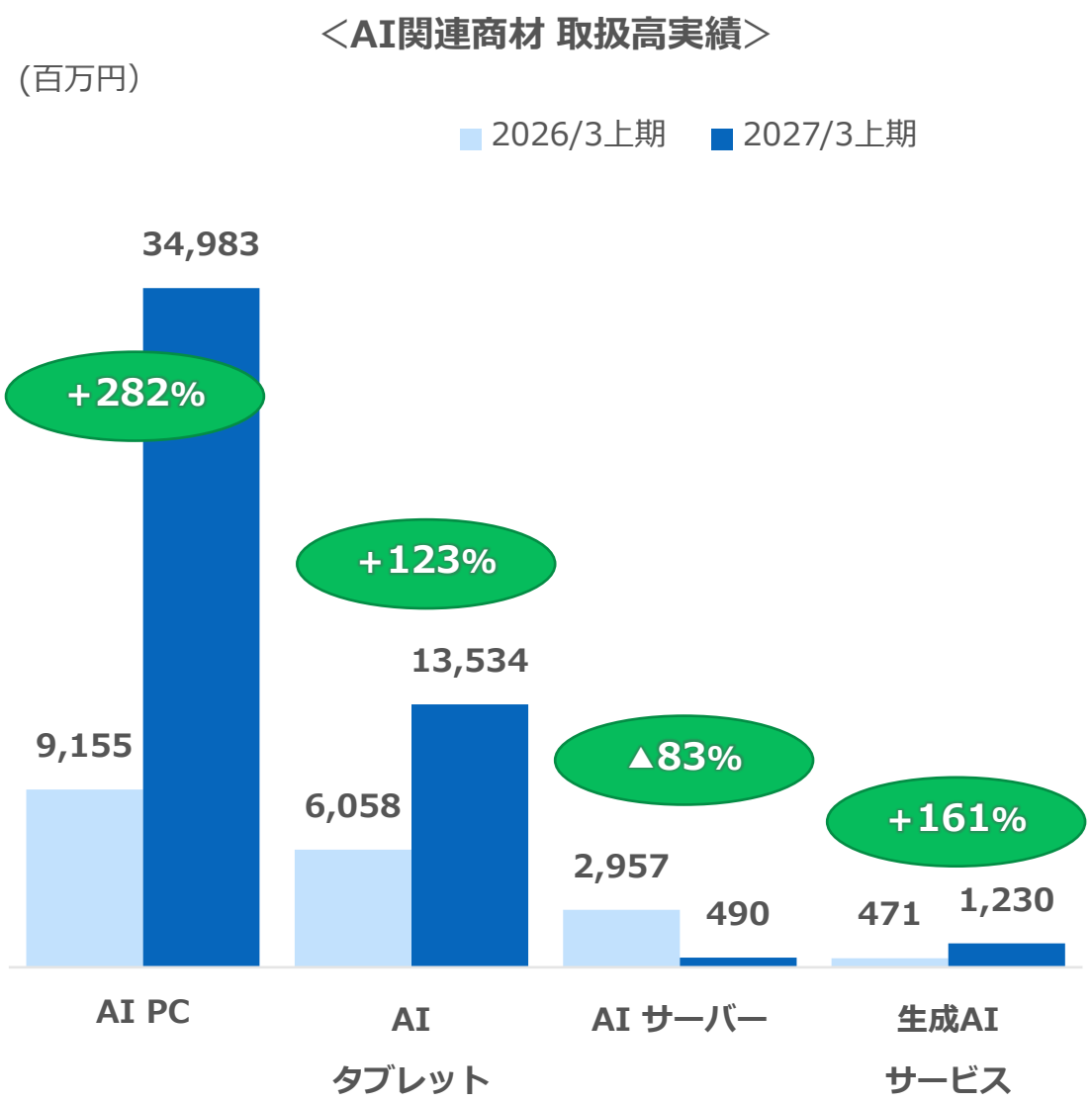
ソフトウェア

- ソフトウェア(クラウド以外) …△8.3%
- ソフトウェア(クラウド) … +23.4%
- iKAZUCHI（雷）** … +31.9%

** iKAZUCHI（雷）はクラウドの内数

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

AI関連商品 第2四半期累計 取扱高



2027年３月期 第2四半期 ハイライト（前年同期比）

- **AI PC　　・・・NPU搭載**
  台数・単価共に伸長し、PCカテゴリにおける取扱高構成比は13.4%に上昇

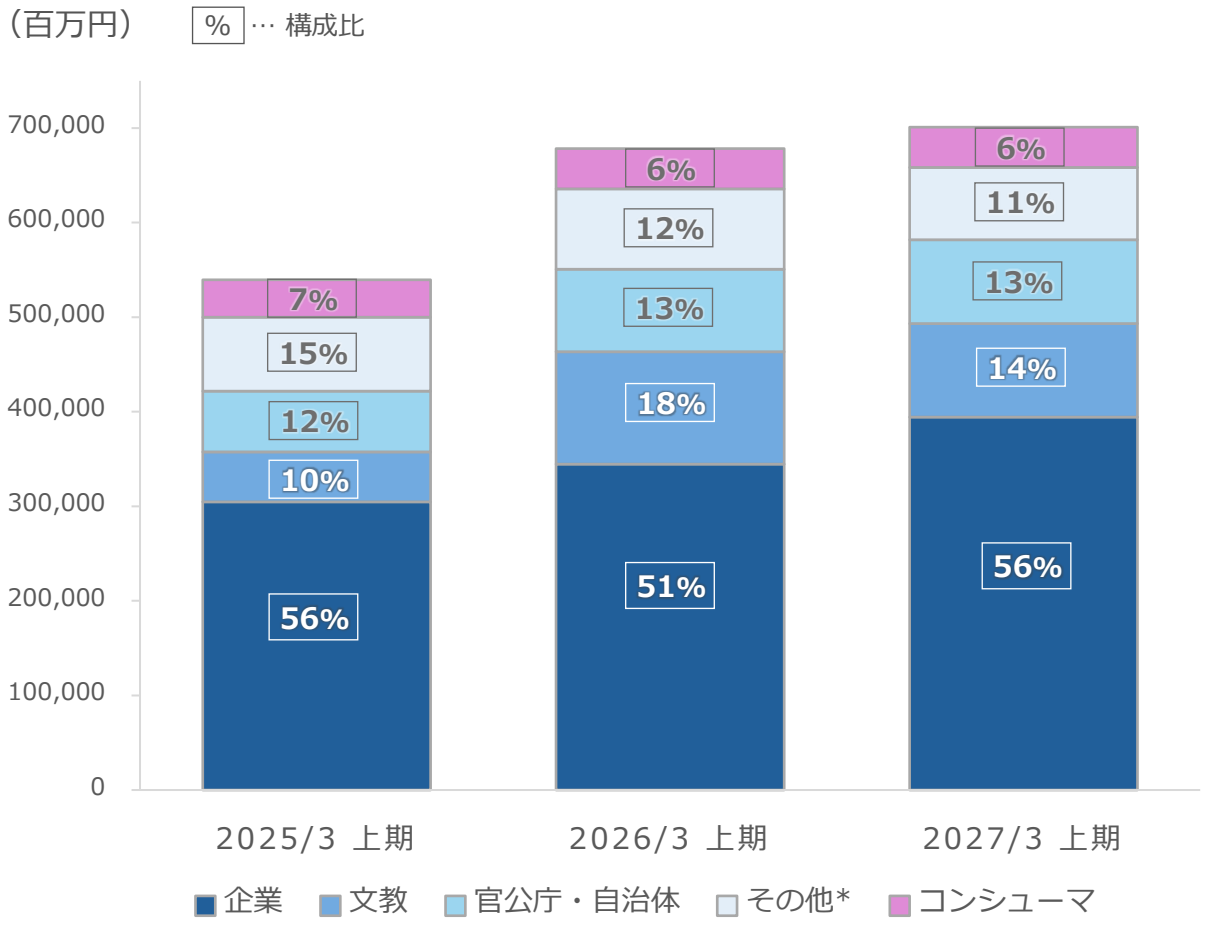
- **AI タブレット・・・NPU搭載**
  対象機種が増加しており、タブレットカテゴリ内の取扱高構成比47.4%に上昇

- **AI サーバー　・・・GPU搭載**
  前年同期の大型案件の反動および価格上昇が影響し、今上期は大幅に減少。サーバー全体は+102.8%と好調

- **生成AIサービス・・・AIコンテンツ生成アプリ**
  現状は特定業務特化型サービスが主力
  iKAZUCHI（雷）の掲載メニューとして展開

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

エンドユーザー別 第2四半期累計 取扱高



*その他 … コーポレート部門（企業、文教、官公庁・自治体の全てを含む）における小規模取引の合計値

2027年３月期 第2四半期 ハイライト（前年同期比）

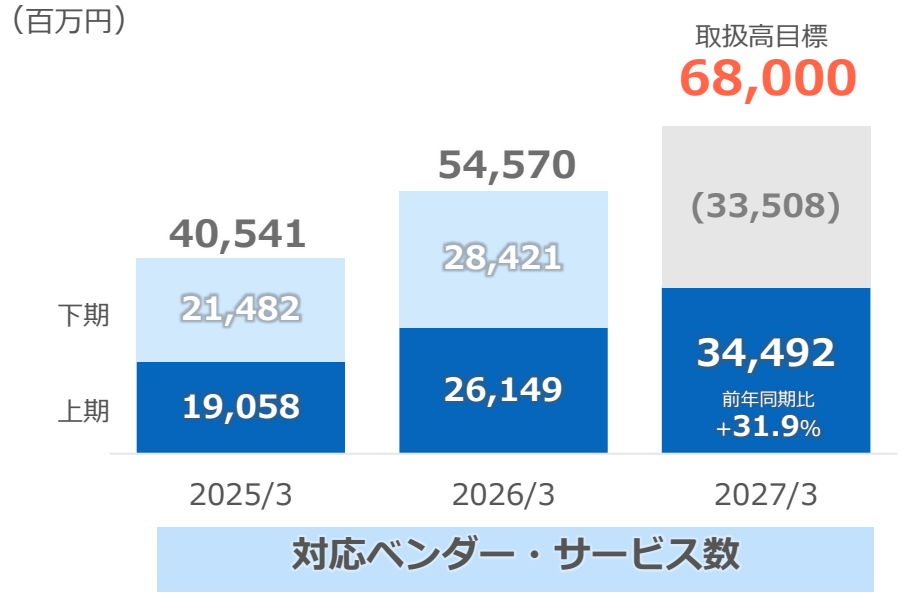
- **企業向け（+14.4%）**
  PCはWindows10EOS更新ピークの反動減がみられたが、データセンター関連のサーバー、ネットワークの大型案件の他、生成AIサービスを中心にクラウドも順調に販売を伸ばし前年同期比で増加
- **文教向け（△16.7%）**
  GIGAスクール第2期は前年出荷ピークの反動により減少。今期導入分は継続受注しているが単価上昇に伴う一部案件の購入・納入時期後ろ倒しが見られ状況を注視。高校、校務向けのネットワークやPC大型案件が実績を下支え
- **官公庁向け（+1.4%）**
  PCやストレージの大型案件複数獲得により増加
- **コンシューマ向け（+0.3%）**
  販売パートナーとの拡販施策が奏功し、量販店・ECの両チャネルが堅調に推移し微増

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

サブスクビジネス iKAZUCHI（雷）第2四半期累計 取扱高

iKAZUCHI(雷)を利用した取扱高

サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」を通じた
販売パートナーへの販売総額（ソフトウェアの内数）



対応ベンダー・サービス数

148ベンダー
301サービス
（2026/6）

▶

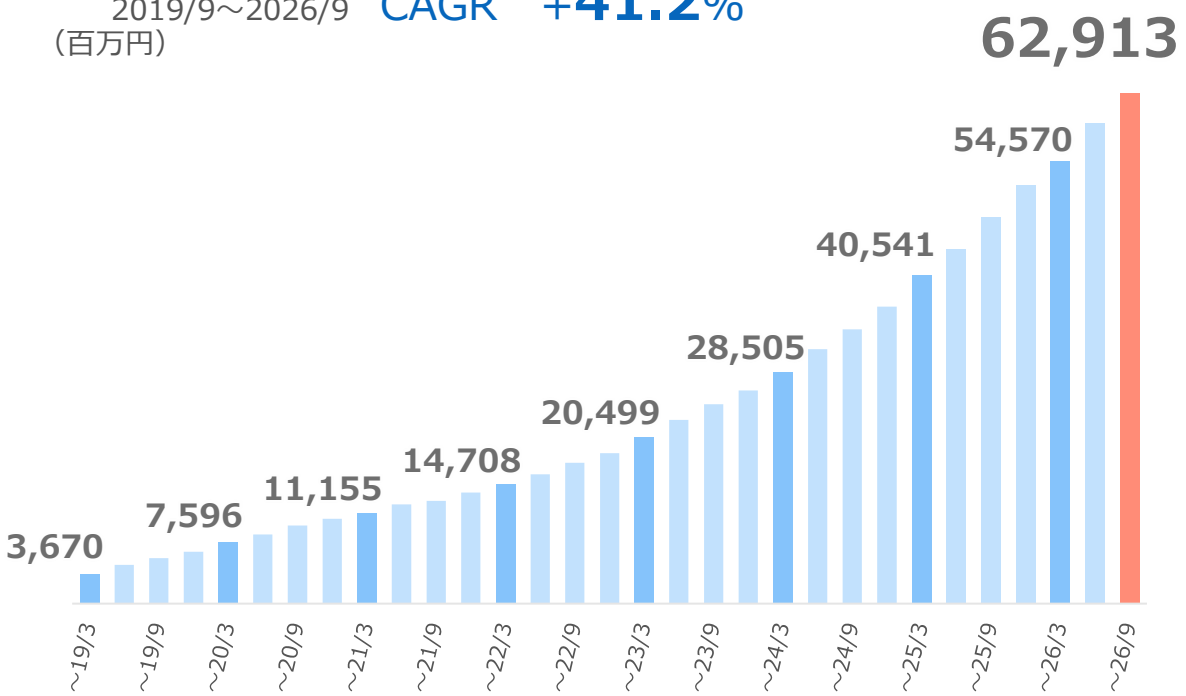
153ベンダー
318サービス
（2026/9）

サブスクリプションビジネスの
市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化



■iKAZUCHI（雷）
12ヵ月累計取扱高の推移（年額課金等を考慮）

2019/9～2026/9 CAGR **+41.2%**



iKAZUCHI（雷）の成長軌道

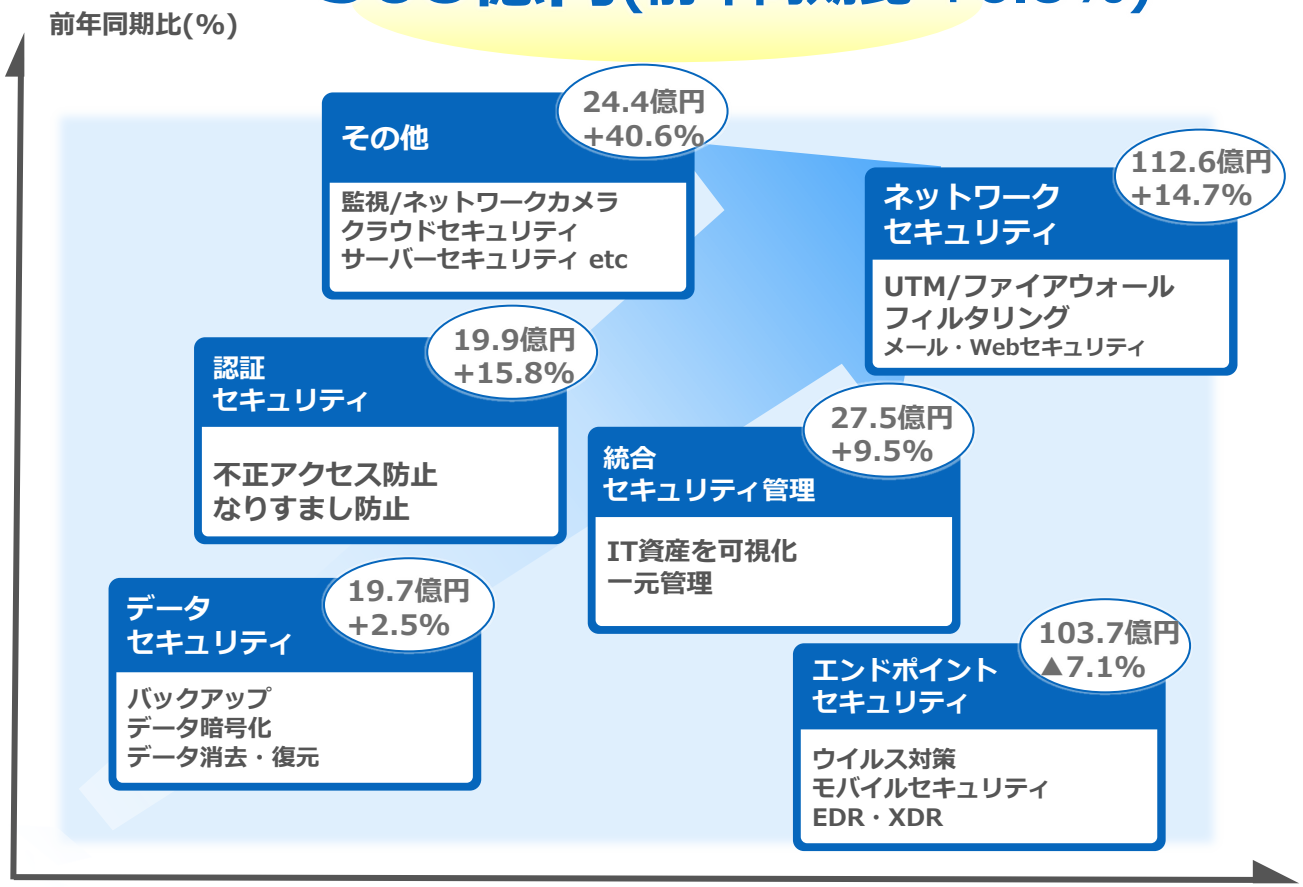
課金形態として年額での購入比率が高いため、四半期毎ではなく12ヵ月累計の推移を見ることで着実な成長を確認

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

セキュリティ関連 第2四半期累計 取扱高

経済産業省『サプライチェーン・セキュリティ(SCS)評価制度』を背景に セキュリティ対策への需要成長が見込まれる

2027年3月期 第2四半期累計
308億円(前年同期比 +6.8%)



NIST Cybersecurity Framework※ 機能分類に応じた サービス・支援を強化

ガバナンス	リスクの特定	攻撃の検知	攻撃の防御	インシデント対応	復旧

- 現在はSCS評価制度開始に向け、自社の現状分析が中心
- 将来的には評価制度に応じた★取得有無が取引条件へ
- 今後3～5年で★取得に向けた対策商材の導入案件は増加見込

※米国国立標準技術研究所(NIST)が提供しているサイバーセキュリティリスクを管理するためのフレームワーク。2024年に2.0へ移行

★取得の定義

★3	★4	★5 (検討中)
【脅威】一般的なサイバー攻撃 【対策】組織・技術を含む基礎対策 【評価】専門家確認付き自己評価	【脅威】大きな被害影響をもたらす企業への攻撃 【対策】組織・技術を含む標準的対策 【評価】第三者評価	【脅威】高度・未知なるサイバー攻撃 【対策】国際規格等に基づく高度な対策 【評価】第三者評価

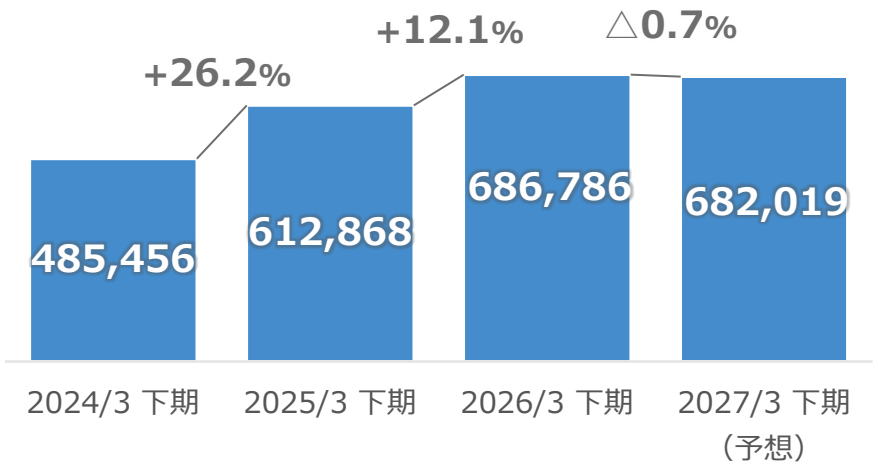
★取得が取引の共通ものさしに

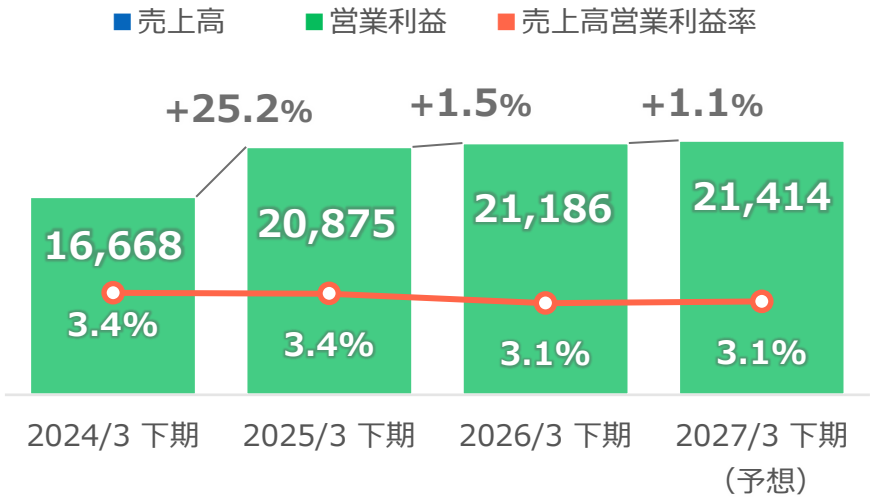
出所:経済産業省HP「サイバーセキュリティお助け隊サービス(新分類)」
https://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/otasuketai_jissho.html

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ITインフラ流通事業　下期（26年10月～27年3月末）見通し

(百万円)





下期の見通し

■ **PC需要動向**

メモリ等部材価格高騰に伴う単価上昇は下期も続く見通し。
出荷台数は上期に前倒し需要がみられた結果、下期は上期を若干下回る予想

■ **売上高見通し**

価格上昇による買い控えの懸念は残るものの、足元の好調な受注状況から単価上昇効果によって、GIGAスクールの反動減を最小限に留め、前年下期と同水準を予想

■ **営業利益率見通し**

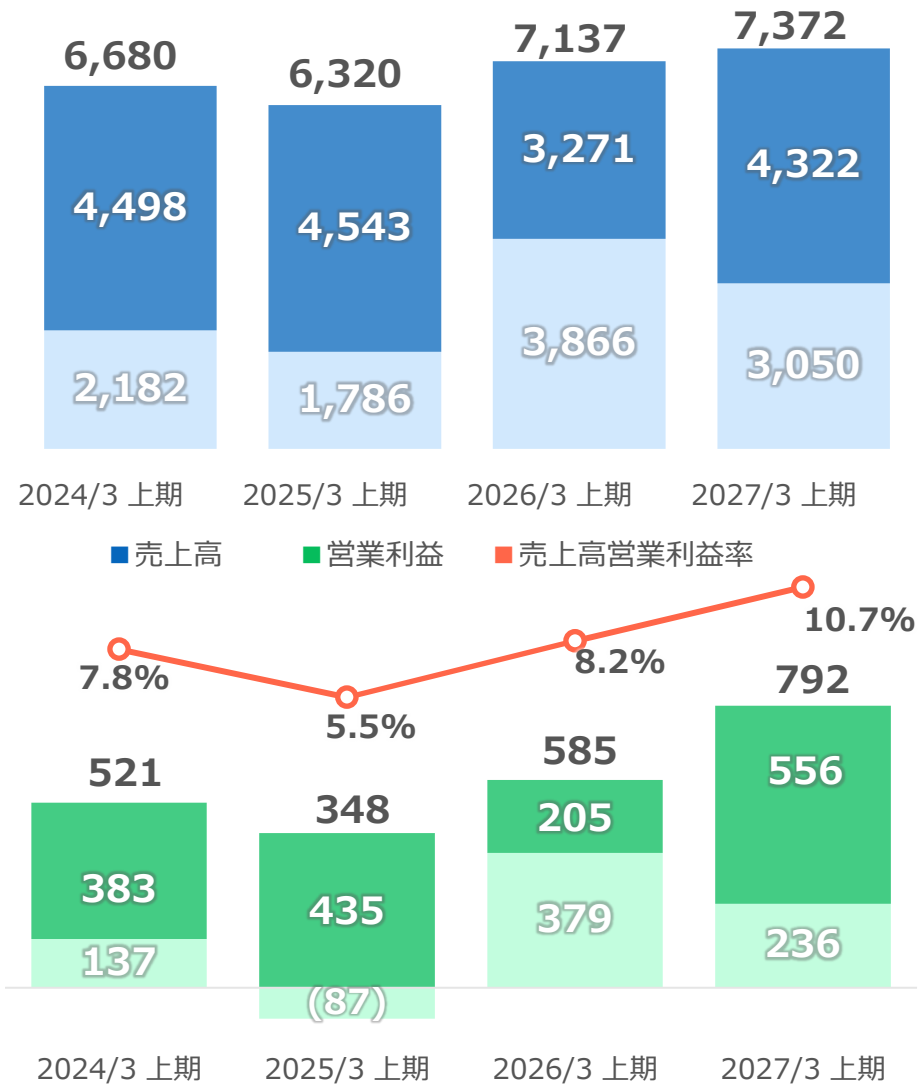
前年下期に出荷ピークとなったGIGAスクールの影響が弱まり、戦略的仕入による利益安定化が期待される一方、販管費の増加によって営業利益率は前年同期比で横ばい

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

産業機械事業

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

産業機械事業



		（前年同期比）
売上高	7,372百万円	（+3.3%）
営業利益	792百万円	（+35.4%）
受注高	8,312百万円	（+26.3%）

事業概況

工作機械部門	■ 日本工作機械工業会4～9月受注総額は前期比57.3%増加 ■ 当社は主力の航空機業界を始め、造船やエネルギー業界からの受注が増加。受注高は前年同期比39.5%増 ■ 豪州・米国展示会の出展等、海外での販売促進を強化し在庫機の受注獲得 ■ 前期受注分の納品進展に加え、当期受注の在庫機売上も増加。前年上期の大型機売上の反動減を補い、増収増益
自動機械部門	■ 省人化需要は継続しているものの原材料・エネルギー価格高騰を背景に設備投資は慎重姿勢。受注高は前年同期比で減少、販売も前年同期比で減少し減収減益

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2027年3月期 業績見通し

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2027年3月期 通期業績予想　＜上方修正＞

（百万円）	2026/3（実績）		2027/3 ①期初予想（5/13開示）		2027/3 ②修正予想（11/11開示）		増減額 ②-①	増減額 ②-前期	前期比
			金額	率	金額	率			
売上高	1,350,879		1,189,000		**1,369,000**		+180,000	+18,120	+1.3%
ITインフラ流通	1,336,479		1,174,500		**1,352,000**		+177,500	+15,520	+1.2%
産業機械	14,400		14,500		**17,000**		+2,500	+2,599	+18.0%
営業利益	44,169	3.3%	36,500	3.1%	**43,000**	**3.1%**	+6,500	△1,169	△2.6%
ITインフラ流通	43,030	3.2%	35,000	3.0%	**41,400**	**3.1%**	+6,400	△1,630	△3.8%
産業機械	1,127	7.8%	1,500	10.3%	**1,600**	**9.4%**	+100	+472	+41.9%
経常利益	44,943	3.3%	36,700	3.1%	**43,050**	**3.1%**	+6,350	△1,893	△4.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	32,030	2.4%	25,300	2.1%	**30,500**	**2.2%**	+5,200	△1,530	△4.8%
1株当たり当期純利益（円）（EPS）	362.07		291.09		**355.44**		+64.35	△6.62	

修正理由

大型案件獲得に加え、PC価格上昇と前倒し受注により上期実績が予想を上回る
下期も企業向けのIT需要は好調に推移する見通しから通期予想を上方修正

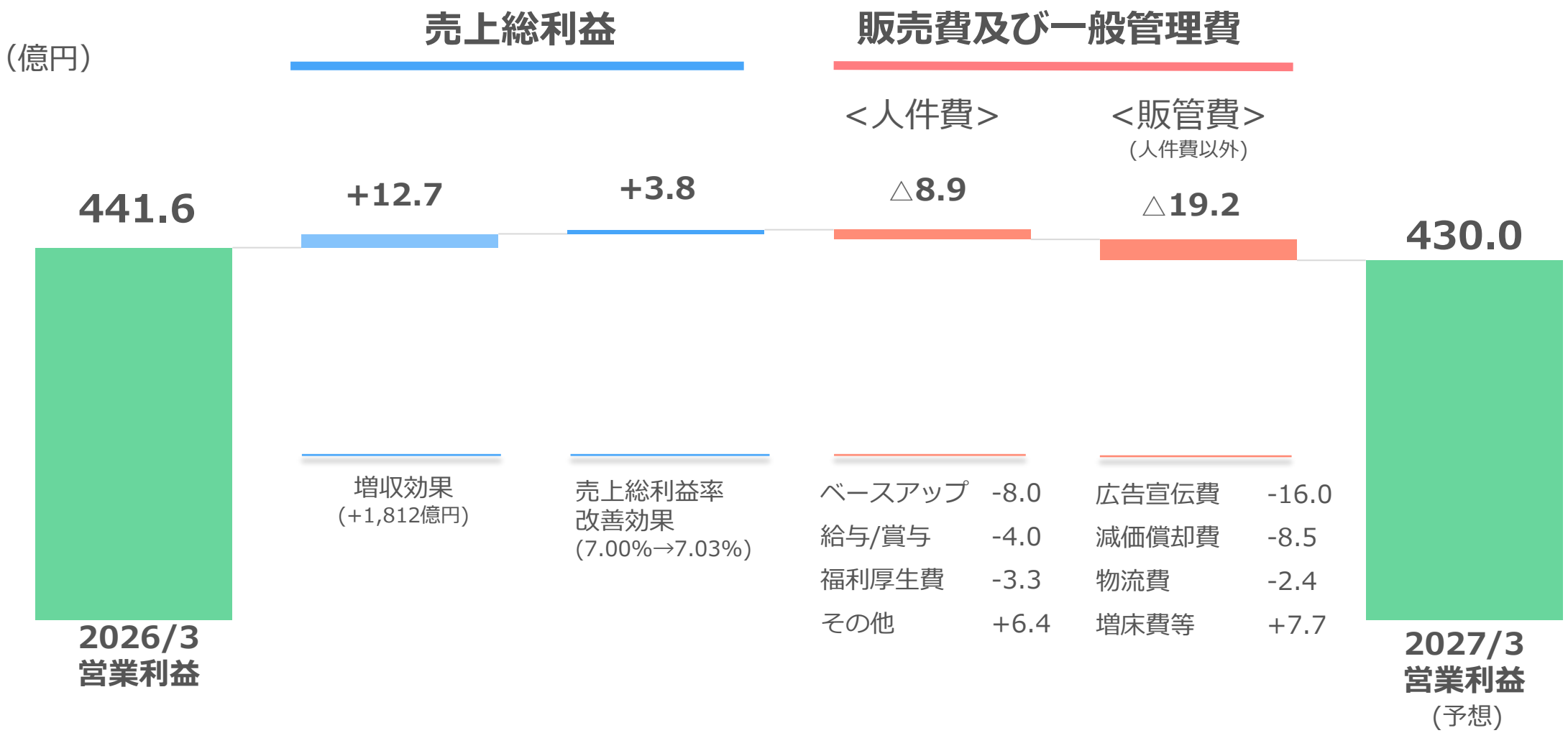
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2027年3月期 下期業績予想　＜上方修正＞

（百万円）	2026/3 下期（実績）		2027/3 下期（予想） ①期初予想（5/13開示） 金額	率	②修正予想（11/11開示） 金額	率	増減額 ②-①	増減額 ②-前期	前年同期比
売上高	694,049		621,950		**691,647**		+69,697	△2,401	△0.3%
ITインフラ流通	686,786		614,500		**682,019**		+67,519	△4,766	△0.7%
産業機械	7,262		7,450		**9,627**		+2,177	+2,364	+32.6%
営業利益	21,734	3.1%	20,000	3.2%	**22,214**	**3.2%**	+2,214	+480	+2.2%
ITインフラ流通	21,186	3.1%	19,200	3.1%	**21,414**	**3.1%**	+2,214	+228	+1.1%
産業機械	541	7.5%	800	10.7%	**807**	**8.4%**	+7	+265	+49.0%
経常利益	22,335	3.2%	20,100	3.2%	**22,263**	**3.2%**	+2,163	△72	△0.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	16,293	2.3%	13,900	2.2%	**15,927**	**2.3%**	+2,027	△366	△2.2%
1株当たり当期純利益（円）（EPS）	184.18		159.92		**185.61**		+25.68	+1.43	

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

営業利益推移 通期見通し



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

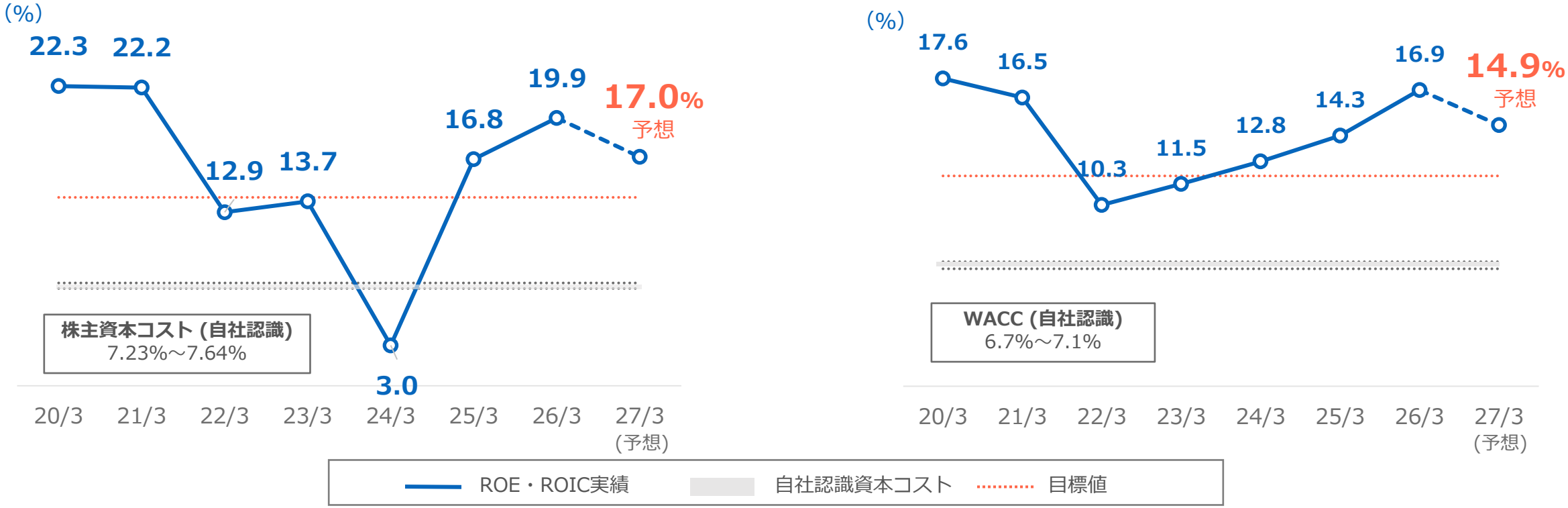
中期経営計画の進捗状況＜グループ経営指標＞

ROE 14%以上

自己資本当期純利益率
＜株主資本に対するリターン＞

ROIC 12%以上

投下資本利益率
※税引後営業利益／（純資産＋有利子負債）
＜投下資本に対するリターン＞



好調な業績を背景にROE・ROICともに中計目標水準をクリアする見通し

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

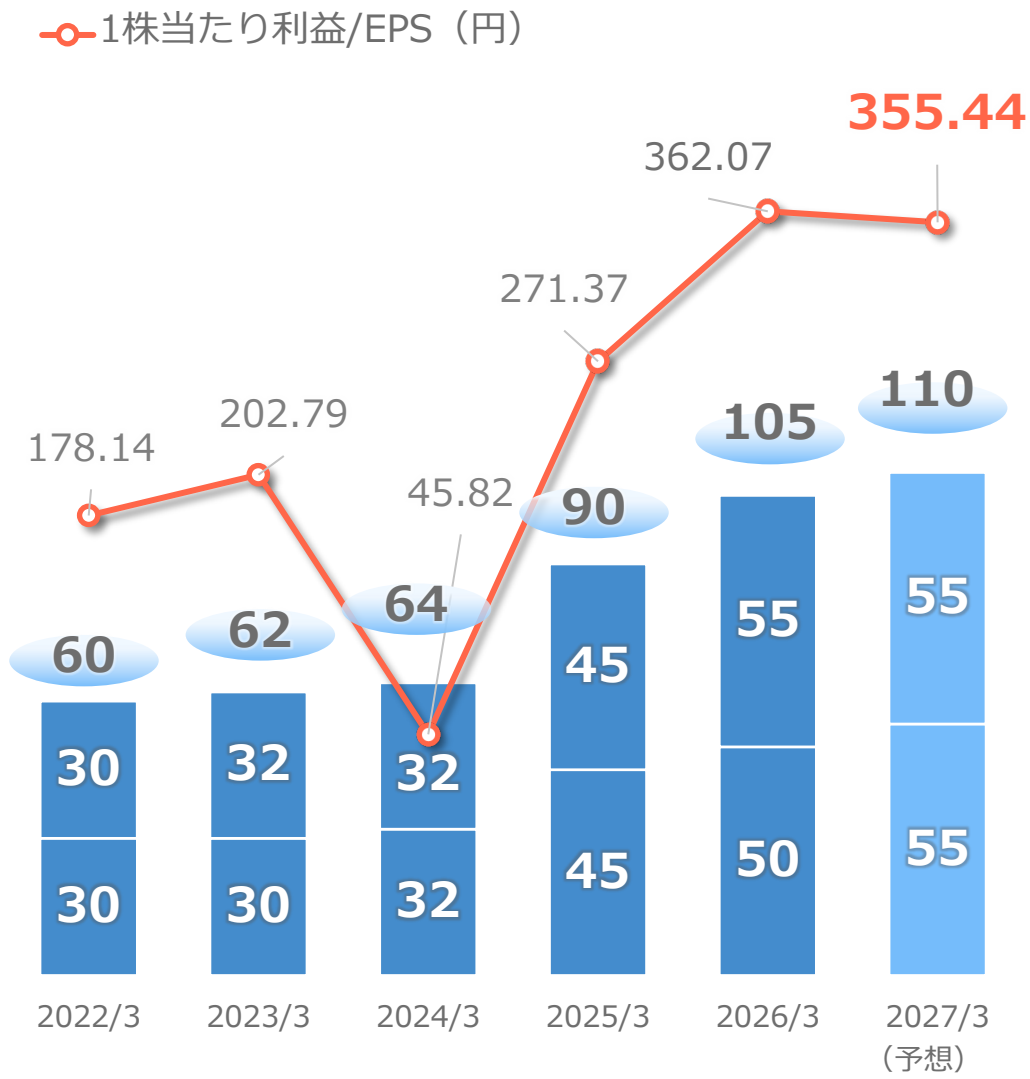
株主還元

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

株主還元

株主還元方針	
配当	配当性向30%以上 現中期経営計画期間中は**累進配当**とする方針
自己株式取得	総還元性向60%以上を目安 **機動的な自己株式取得**を組み合わせる

	2026年３月期			2027年３月期（予想）		
	中間	期末	年間	中間	期末	年間
1株配当	50円	55円	105円	55円	55円	110円
自己株式取得	約80億円			約60億円 ※取得完了（2026/5/14～2026/10/8） ※297.8万株消却（2026/10/30）		
配当性向	29.0%			30.9%		
総還元性向	53.8%			50.6%		



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

参考資料

- 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- 事業概要
- ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- 業績推移グラフ

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

中期経営計画の進捗状況＜損益＞

中期経営計画の進捗

（億円）	2025/3期（計画）	2026/3期（計画）	2027/3期（計画）
売上高	9,750	10,500	10,000
営業利益	311	350	330
営業利益率	3.2%	3.3%	3.3%

※中計発表時の計画値

※11/11　業績修正

（億円）	2025/3期（実績）	2026/3期（実績）	2027/3期（予想）
売上高	11,368	13,508	13,690
営業利益	348	441	430
営業利益率	3.1%	3.3%	3.1%

今後の見通し

- メモリ・SSD等の部材価格動向に加え、金利上昇や地政学リスクなど、事業環境の不確実性が高まる一方、企業以外にも官公庁・自治体、文教向けでもIT投資は引き続き堅調に推移する見込み
- 急務となるサイバーセキュリティ対策の強化や、人手不足への対応・生産性向上に向けたAI活用の本格化を背景に、IT投資は必要不可欠なインフラ投資として定着
- 国内PC出荷台数は人口減少等を背景に頭打ちが見込まれるものの、当社としては新興ベンダー・新商材の開拓と提案による新たな需要喚起を推進
- ディストリビューション事業にとどまらず、M&Aの活用も含めた事業領域の拡大と収益構造の強化を継続

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

『2030 VISION』で達成したい当社のあるべき姿（再掲）

新規領域は知見のあるIT市場の周辺分野や
AI・DX関連を含めた先進テクノロジー分野を中心に模索

AI
XaaS
Automation
ITAD
Security
Logistics
DX
Network
Consulting
Healthcare
Education
Subscription

FY2030目標
連結営業利益
500億円

IT プロダクト	IT ディストリビューション	IT ソリューション	IT サービス	産業機械

IT分野におけるバリューチェーン

コア領域のさらなる強化・深化に向けて
3つのS【 Service / Solution / Sustainability 】を中心に機能拡充

迅速な意思決定と投資が可能なホールディングス体制の利点を活かして持続的成長を実現

▶▶▶ **あるべき姿の体現に向け社名変更も検討**

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

中期経営計画　グループ基本方針（再掲）

01
ホールディングス体制での成長

- 持株会社として新たな事業領域への参入を探求
- 事業会社はセグメント内での強化・再編に着手

02
"過去最高"へのチャレンジ

- 売上高、利益における過去最高業績の更新
- 会社、組織、事業、個人それぞれのフィールドでベストパフォーマンスを目指す

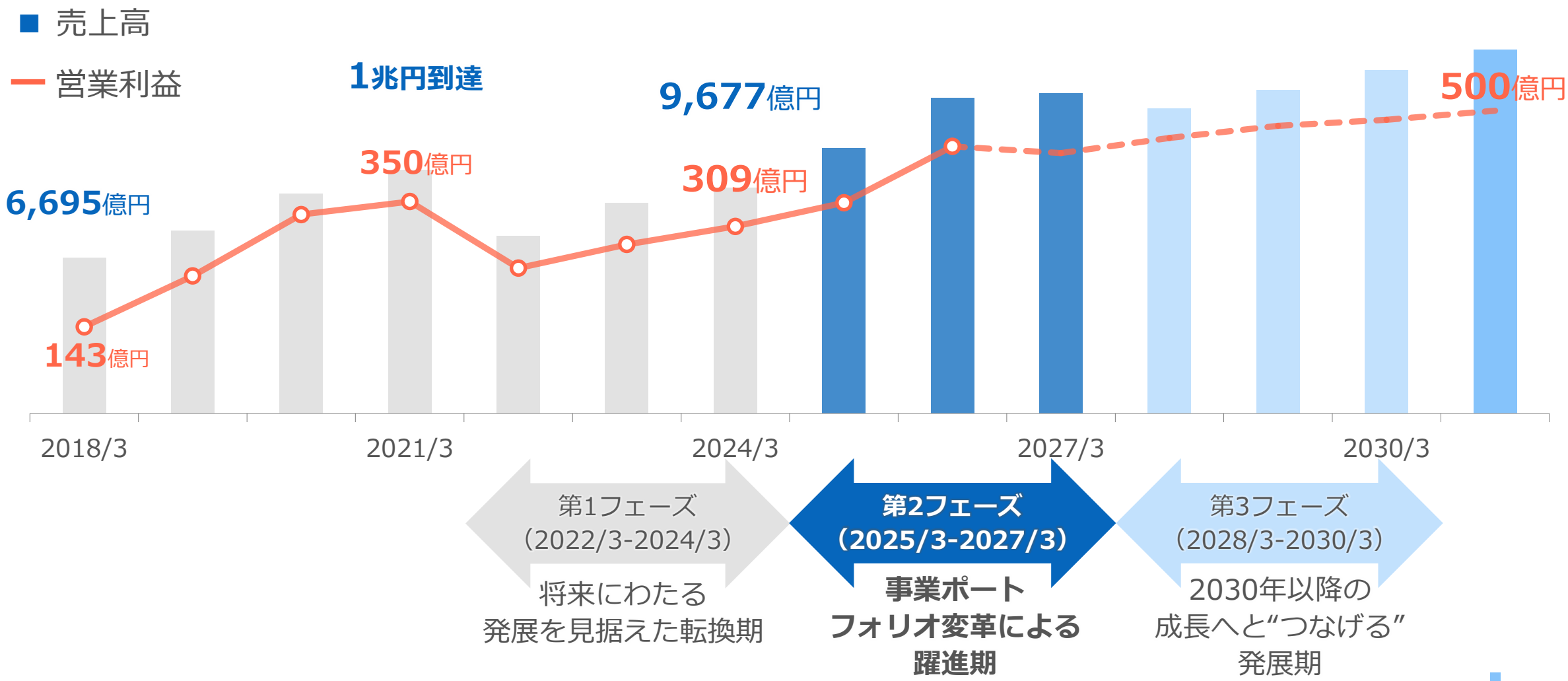
03
ステークホルダーエンゲージメントの向上

- 株主、取引先、従業員、地域社会などとの信頼関係向上と相互理解による協働
- 人的資本、システム、ガバナンス面など必要とされる経営基盤のさらなる強化
- ウェルビーイング経営の推進

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

中期経営計画の位置づけ（再掲）

『2030 VISION』からバックキャストする観点でも重要な３ヵ年



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

M&Aに関する考え方（再掲）

さらなる成長のために、M&Aを積極的に推進する計画
事業領域とハードルレートを意識した規律ある投資判断により実施する

事業領域

M&Aは以下の事業領域を中心に実施を検討

- AI
- DX
- XaaS
- Subscription
- Network
- Logistics
- ITAD
- Consulting
- Security
- Automation
- Education
- Healthcare



投資・調達の意思決定

定量的に投資判断を実施

資本コストを上回るか
株主資本コスト：7.23%～7.64%　WACC：6.7%~7.1%

長期的にEPSの向上に資するか
自己株式の取得と比較検討

財務健全性：長期的に格付A※を維持

資本効率を低下させないか

資金調達方針
小規模のものは手元資金で賄うが、必要に応じて借入を中心に資金調達

※日本格付研究所（JCR）による長期発行体格付

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

人的資本戦略（再掲）

中期経営計画	人的資本施策		
人的資本投資 （3カ年で※**100**億円以上） ＋ **ウェルビーイング経営**	**ダイバーシティ推進** ― 女性活躍推進、シニア活躍推進 等	新事業・新製品の展開	**労働生産性の向上** ▼ **利益率 資本回転率アップ** ▼ **ROIC向上**
	人材採用の強化 ― グループ採用、キャリア採用 等	従業員一人ひとりのチャレンジ姿勢の強化	
	育成環境の整備 ― 研修・OJT、リスキリング支援 等	従業員の発想力・スキル向上 稼働効率UP	
	従業員エンゲージメント向上 ― 処遇・評価、福利厚生、サーベイ 等		
	健康経営の推進 ― 健康保険、労働時間管理、安全衛生 等	生産管理能力強化による納期・在庫の改善	

TOPICS

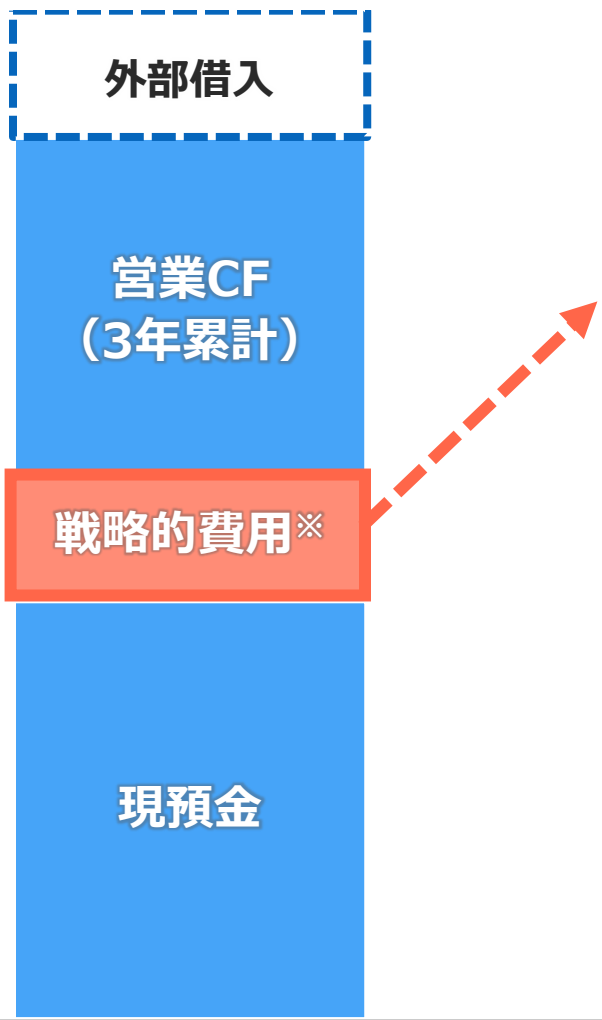
- 2023年以降グループ各社にて**大幅な賃金ベースアップ**（初任給改定含む）を実施
- 人的資本戦略の遂行における機能強化のため、**ウェルビーイング推進室を新設**
- 中計で予定していた3カ年で100億円以上の人的資本投資を※**155億円以上**に拡大
- DISにて「**健康経営優良法人2026**」の認定を取得

グループ連結の労働生産性
1人当たり売上高 目標値
3カ年平均 **+5.7%**以上

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

キャピタルアロケーション方針（2025/3期～2027/3期）（再掲）

3ヵ年累計でのキャピタルアロケーションイメージ





案件規模に応じ自己資金だけでなく外部借入等を活用

- CAPEX（設備投資・研究開発）：**110億円**
- システム投資※（経費）：**80億円以上**
- 人的資本投資※（経費）：**140億円→155億円以上**

安定的な配当（現中計期間中は累進配当とする方針）
機動的な自己株式取得を組み合わせ

- 配当：**配当性向30%以上**
- 自己株式取得：**総還元性向60%以上**を目安

運転資金として**500億円程度**の現預金を保持
ITインフラ流通事業における月商および運転資金から試算し
適切な水準の手元流動性を確保

※成長投資のうち会計上費用とされるシステム投資と人的資本投資のうち、
2024/3期実績からの増加分をカウント

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

次期中期経営計画に向けた重点検討事項（再掲）

2027年5月発表予定の次期中期経営計画策定に先立ち、重点検討事項を整理

現状の課題認識

資本市場との対話や、事業環境の急速な変化を踏まえ、以下を次なる飛躍への最重要課題として認識

- **特需依存の懸念を払しょくする「非連続な成長ストーリー」の提示**
  - 第一歩としてのIT人材事業を営むBCC(株)との資本業務提携に続き、ITバリューチェーンにおけるインオーガニック成長（M&A）の実行
- **エクイティストーリーや経営目標と整合する攻めの資本配分方針の策定（優先順位を含む）**
- **中長期的に資本コストを上回る持続的かつ強靭な収益基盤（ストック収益）の構築**

検討事項

成長戦略（M&A含む）	■ **戦略の方向性：**IT分野におけるAll-in-One Solution Companyを目指し、既存事業の拡大とM&Aによる新たな事業領域への滲み出し ➢ ITライフサイクル全体の運用・更新・エンドオブライフ（回収/再資源化）までを意識し、販売パートナーやユーザーとの関係性をより持続的なものとすべく、ITバリューチェーン全体を総合的に支援する「プラットフォーマー」へと進化するための事業ポートフォリオ戦略の策定 ■ **成長戦略を通じて達成すべきKPI：**早期にROE20%を達成するための利益水準と、エクイティストーリーの具現化を通じた企業価値（時価総額）の向上
キャピタルアロケーション方針	■ **投下資本の配分：**成長投資を最優先としつつ、資本効率を極限まで高める「最適資本構成」の追求 ➢ 戦略的な成長投資（M&A）においては、自己資金に加え、格付「A」の信用力を背景とした外部負債（レバレッジ）の積極的な活用 ➢ 財務規律として現在の自己資本比率35%前後を目安としつつ、過度な自己資本の蓄積を抑制 ➢ 株主還元については、累進配当の継続に加え、M&A等の資金需要の状況に応じた機動的な自己株式取得の実行について検討
資本コスト低減	■ **市場期待の向上と資本コスト低減に向けた施策の検討** ➢ IR資料の高度化を通じた業績ボラティリティ懸念の払しょく ➢ 経営の透明性を向上させるためのガバナンス高度化

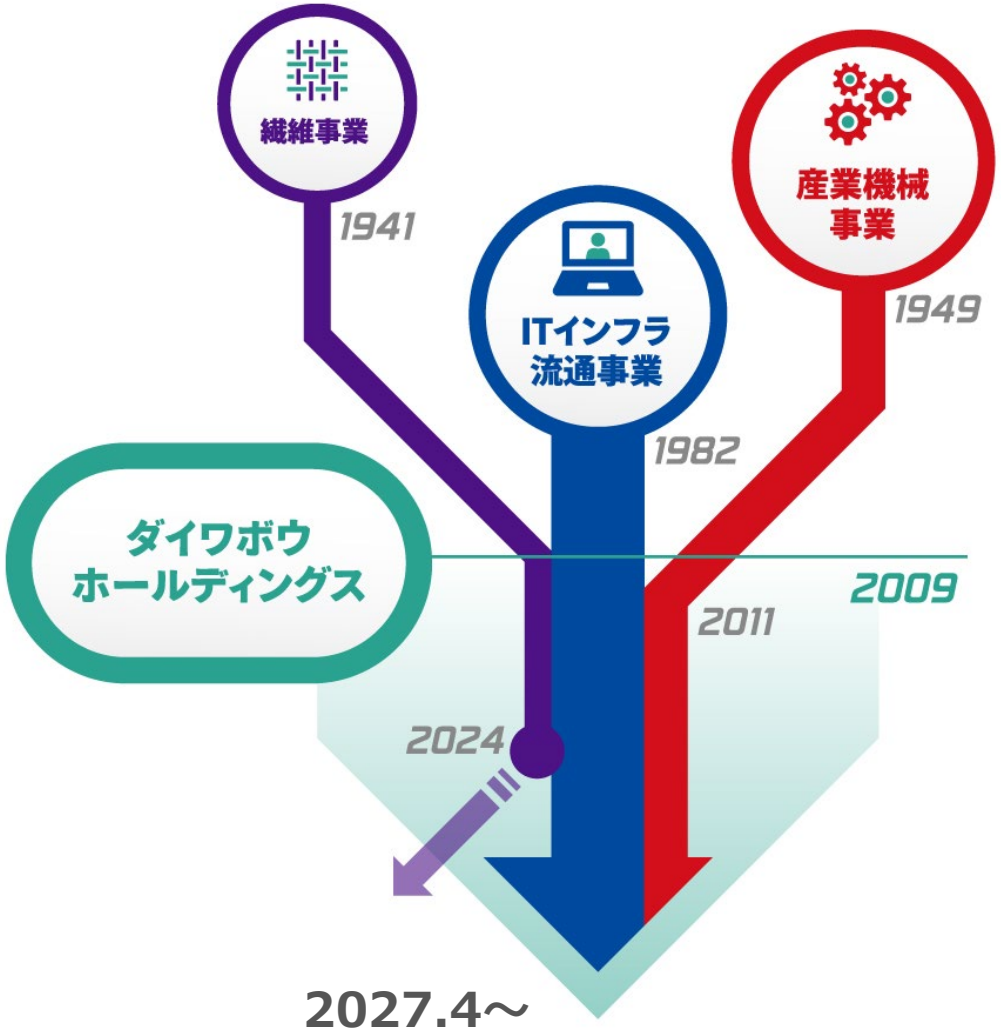
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

参考資料

- 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- 事業概要
- ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- 業績推移グラフ

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

グループの沿革



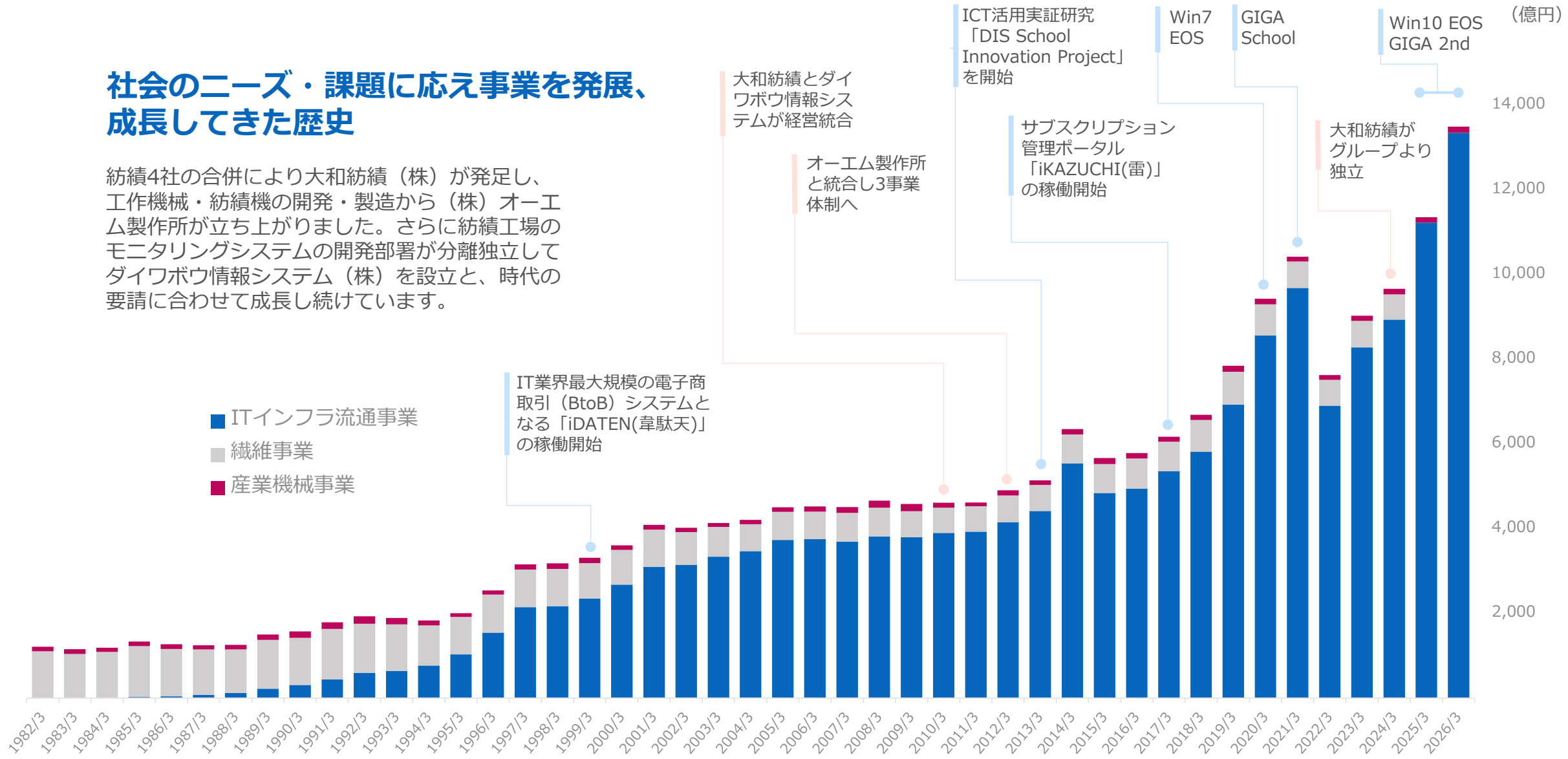
1941. 4	錦華紡績、日出紡織、出雲製織および和歌山紡織の4社が合併し、**大和紡績**として発足
1949. 5	大和紡績が東証1部上場
1949. 7	大和紡績が宍道工場を分離し、大和機械工業（現**オーエム製作所**）を設立 →その後、工作機械・紡績機の製造を手掛けていた大阪機械製作所と1960年に合併しオーエム製作所が誕生
1971.11	オーエム製作所が東証1部上場
1982. 4	大和紡績が新規展開の一環として、情報関連事業へ進出するために**ダイワボウ情報システム**を設立
2000. 9	ダイワボウ情報システムが東証1部上場
2009. 4	大和紡績とダイワボウ情報システムが経営統合
2009. 7	大和紡績が**ダイワボウホールディングス**へ商号変更 繊維事業の中核会社として新たに**大和紡績**を設立
2011. 7	ダイワボウホールディングスとオーエム製作所が経営統合　⇒**3事業体制へ**
2024. 3	株式譲渡により**大和紡績が独立**
2027. 4	商号を「**MUSUBITE株式会社**」へ変更

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

価値創造の歴史

社会のニーズ・課題に応え事業を発展、成長してきた歴史

紡績4社の合併により大和紡績（株）が発足し、工作機械・紡績機の開発・製造から（株）オーエム製作所が立ち上がりました。さらに紡績工場のモニタリングシステムの開発部署が分離独立してダイワボウ情報システム（株）を設立と、時代の要請に合わせて成長し続けています。



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ITインフラ流通事業　事業戦略

1 業界リーダー企業としてコア領域の深化

- **特需反動による端末ビジネスの落ち込み抑制**（AI PC市場とGIGA第2期の残存需要獲得）
- **次世代インフラビジネス領域の成長**（IT運用負荷軽減に向けたマネージドサービス提案）

2 成長分野であるクラウド領域でのシェア拡大

- **IaaS/PaaS領域の成長基盤強化**（AWS/Azure/Google Cloudの提案）
- **SaaS市場シェア拡大**（iKAZUCHI(雷)掲載サービスのプロモーション強化）

3 DX推進による販売パートナーリレーションシップ強化

- **販売パートナーの生産性向上**(オリジナルサービス提供を通じた技術者不足の解消支援)
- **先進テクノロジーの展開による事業領域拡大**（国内未展開の海外ベンダーを開拓）

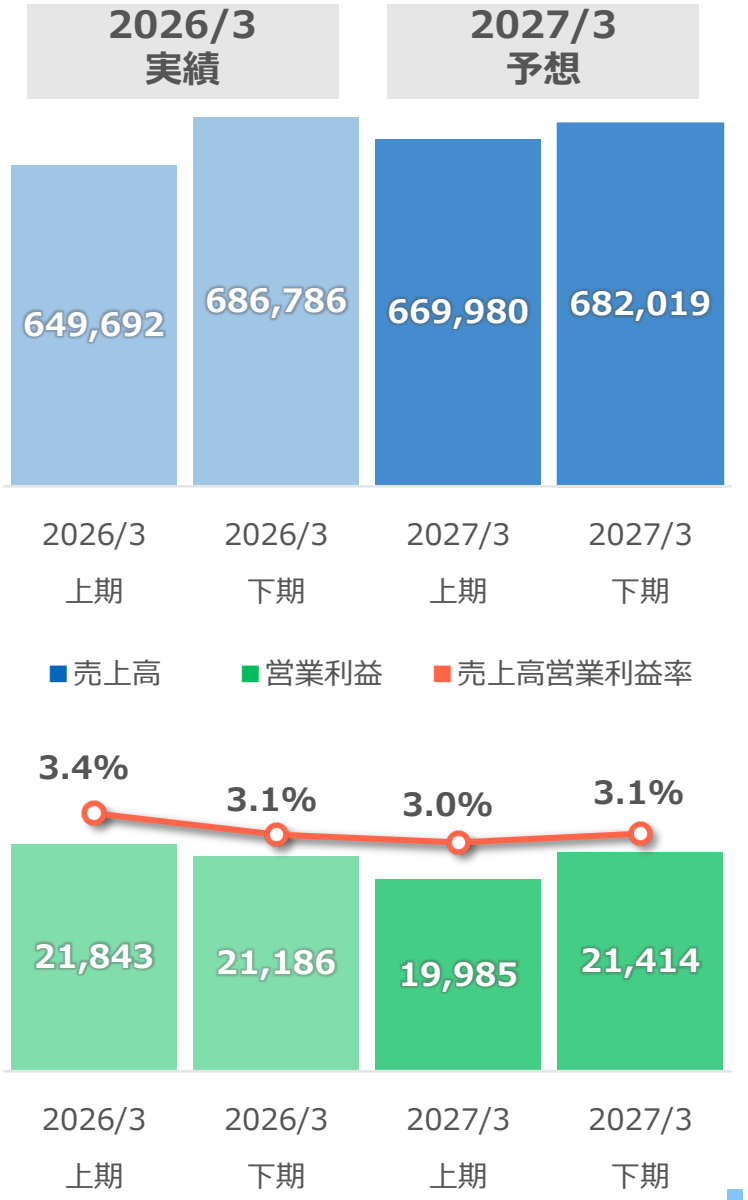
4 戦略的投資の実行

- **事業強化に向けた投資**（次期システムの検討）
- **業界最適化に向けた投資**(IT流通全体の効率化を見据えた次世代物流戦略の検討等)

5 DISバリュー向上につながる企業ブランディング

- **企業ブランドの再構築**(社名変更を含めたリブランディングプロジェクト推進)
- **DISの社会認知度向上**（メディア活用による発信の拡充）

（百万円）



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ダイワボウ情報システム（DIS）の歩み

1982　DIS創業

- 大和紡績が、PC活用による生産現場のモニタリングシステムを自社開発したノウハウを生かして、わずか10名でスタート
- システム開発・販売ではなく、PCをはじめとした情報機器の販売にシフト

1983-1984　多店舗展開

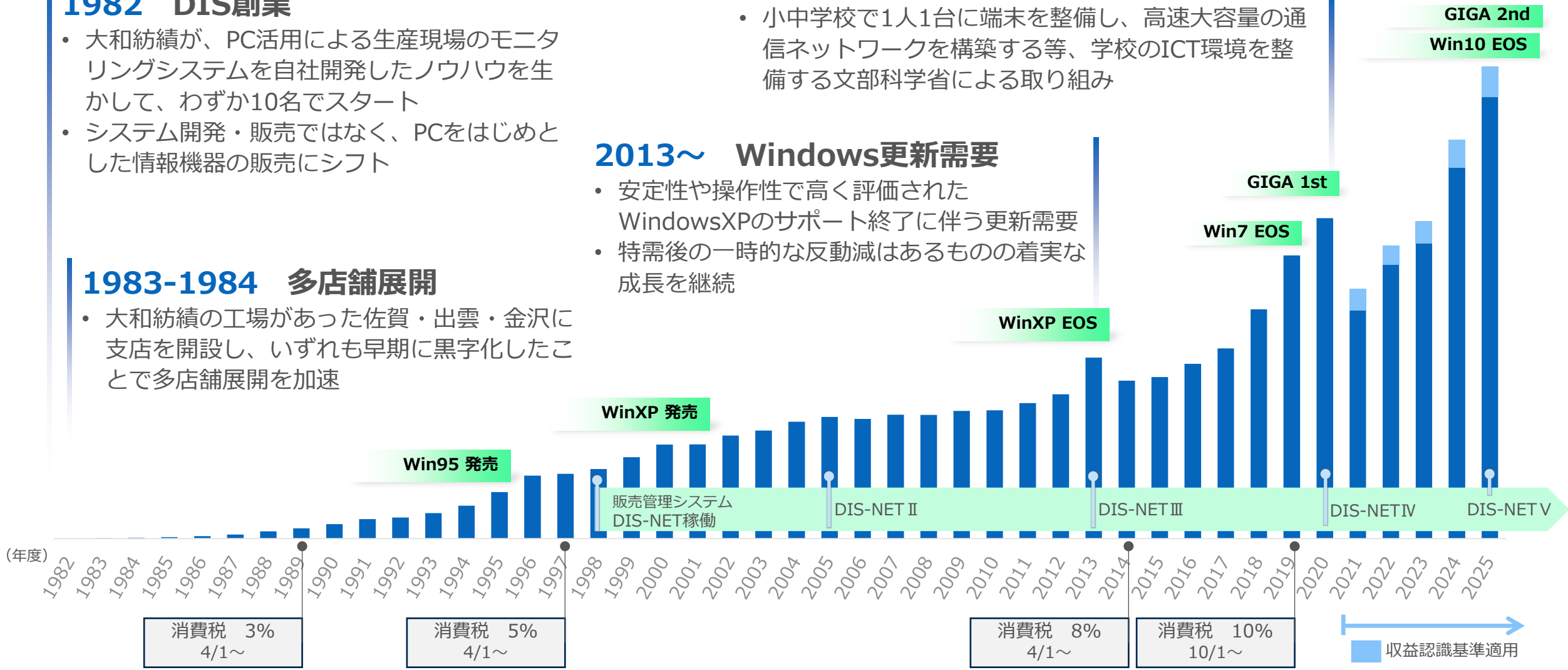
- 大和紡績の工場があった佐賀・出雲・金沢に支店を開設し、いずれも早期に黒字化したことで多店舗展開を加速

2013～　Windows更新需要

- 安定性や操作性で高く評価されたWindowsXPのサポート終了に伴う更新需要
- 特需後の一時的な反動減はあるものの着実な成長を継続

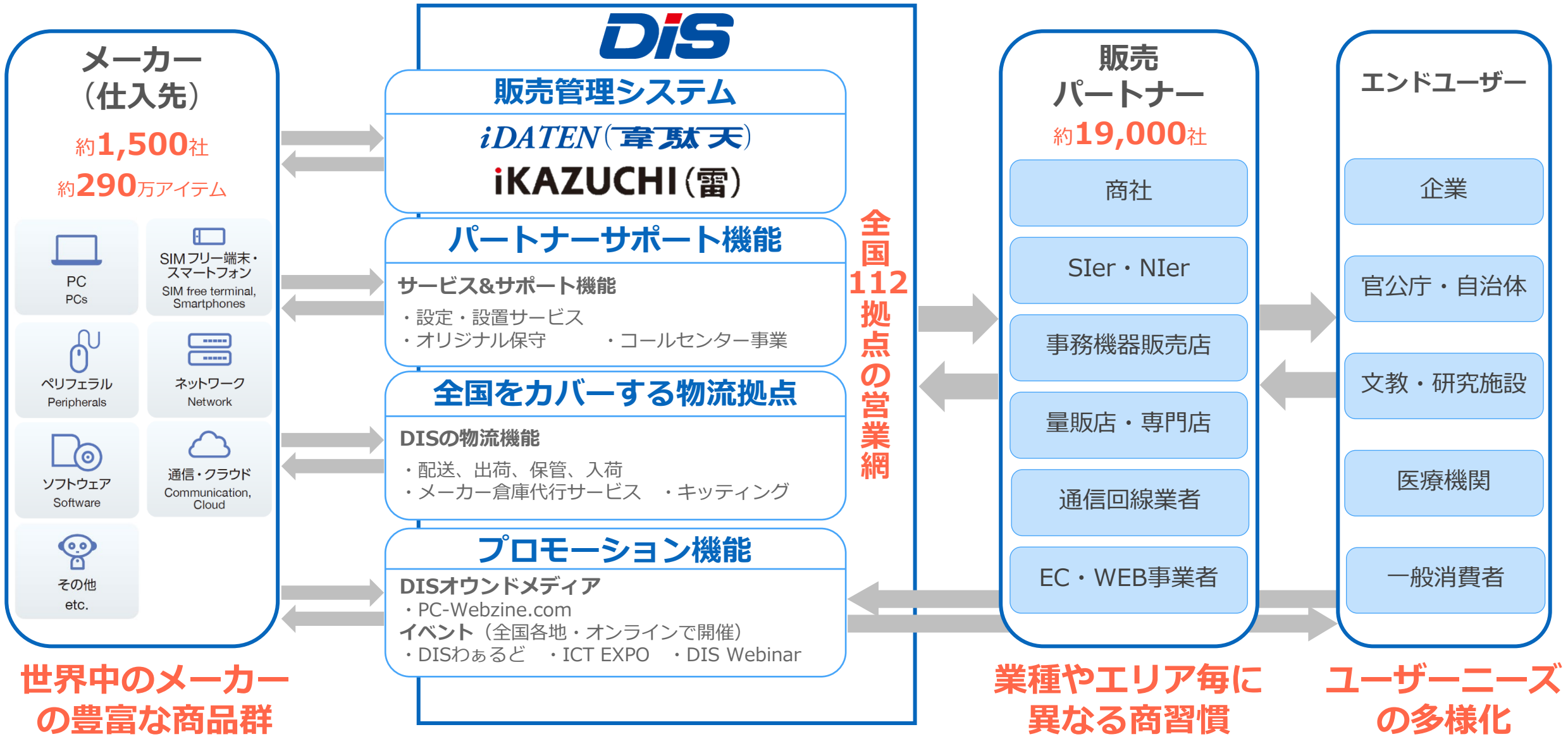
2020～　GIGAスクール構想

- 小中学校で1人1台に端末を整備し、高速大容量の通信ネットワークを構築する等、学校のICT環境を整備する文部科学省による取り組み



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ITインフラ流通事業の事業構造



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ディストリビューターの役割と付加価値

メーカー（仕入先）

約1,500社　約290万アイテム

商品開発
営業・販促
受注・生産
在庫・出荷
請求・回収

DISの営業網を活用し販路拡大・販売業務効率化

- 長年培ったサプライチェーンマネジメントにより**全国の需要量・ニーズを連携し、メーカーの生産計画やプロモーションに反映**
- 物流センターをメーカーの倉庫機能として活用することで、**メーカーの時間・コスト節約に加えて、キッティングや他社製品と組み合わせた出荷を実現**
- 海外から日本市場に新規参入するメーカーと協業し**国内を網羅した販売網・配送網を提供**

一本化・協業・代行

DISの役割

- **全国112拠点の営業網**
- **物流センター**
- **商品選定・提案**
- **市場ニーズの把握**
- **キッティング**
- **保守サポート**

一本化・協業・代行

販売パートナー

約19,000社

選定	設定
提案	納品
見積	支払
発注	顧客対応

DISの機能を有効に活用することで自社の得意なビジネス領域に注力

- 様々なメーカーの商品・情報を取り揃え、**最適な組み合わせで提案・提供**
- 豊富な在庫から販売パートナーに代わって**全国のエンドユーザーにスピーディに納品**
- 出荷前のキッティングや運用、保守、延長保証等の**技術サービスをワンストップで提供**
- 地域特性に応じたイベント開催・プロモーション等**全国拠点を活用した需要創出**

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

物流センター効率化

関西センター（神戸市）



2020年5月本格稼働

倉庫面積：36,342㎡

関東中央センター（埼玉県吉見町）



2016年6月本格稼働

倉庫面積：44,753㎡

東西メガセンターを中心に
効率化・生産性向上に注力

ロボットストレージシステム

→作業効率・スペース最適化

【ロボット稼働台数】

関東中央：**45**台、関西：**30**台

キッティングセンター併設

→入荷＞作業＞出荷に迅速対応

PC・タブレット キッティング実績：年間**48.2**万台（2026/3期）

トラック予約受付システム

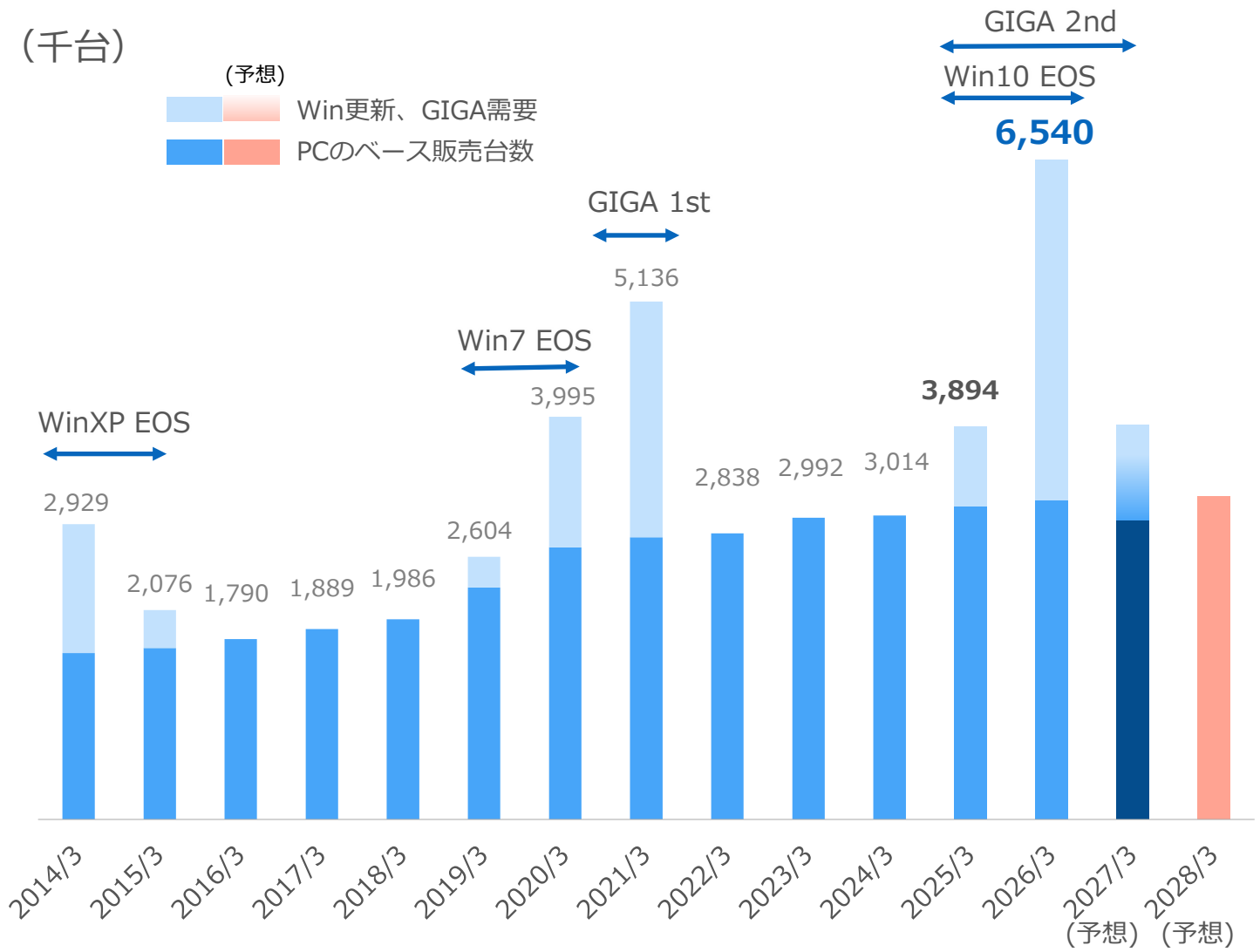
→入出荷情報の共有・車両平準化





© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

PC出荷台数イメージ



PCの出荷状況

- 27/3期はWindows更新需要が終了し、当社の企業向け出荷台数は26/3期比で約90万台減少

GIGAスクール第2期 端末更新

- 25/3～27/3期に全国で約1,000万台の需要があり、すでに約70%が更新されたと想定
- PC＋タブレットや関連製品・サービス等を含めた当社の今期取扱高は**約700億円**を目標に活動
- 2027年3月期入札も順次進んでいるが、メモリ価格高騰によりGIGA対象端末も価格が上昇。今後納入が後ろ倒しになる可能性もあり、販売パートナーと連携して状況を注視

2028年3月期以降 当社国内PC市場予想

- 今後も企業のDX投資を背景に底堅い需要は継続、AI PCの市場浸透が期待される
- メモリ価格や原油高を受けたIT製品価格の上昇に伴う需要減退には注視が必要

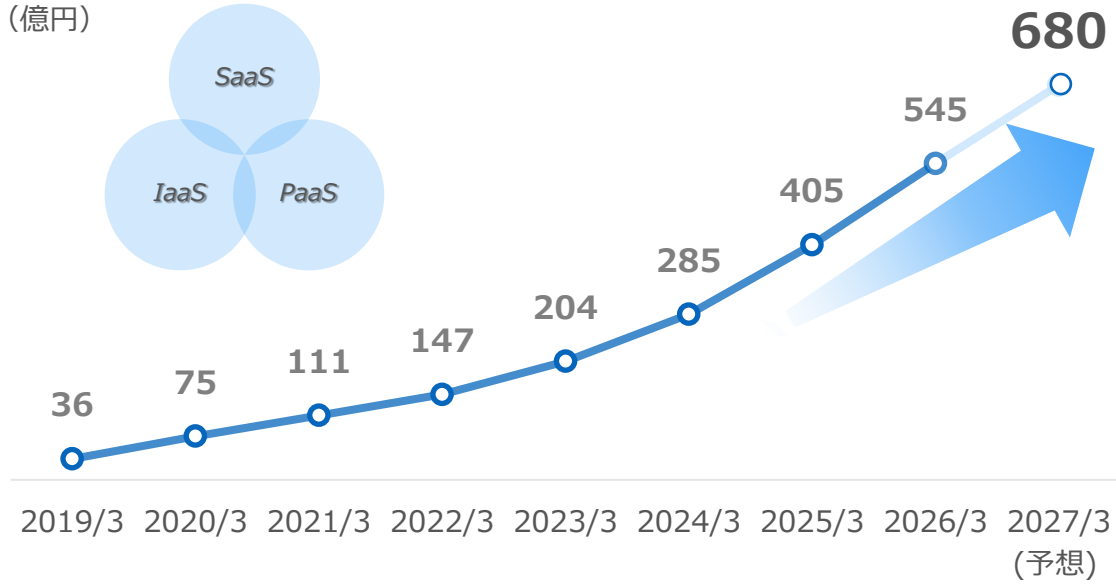
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

iKAZUCHI(雷)経由の販売目標と登録販売店数の推移

iKAZUCHI(雷)取扱高

サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」
を通じた販売パートナーへの販売総額

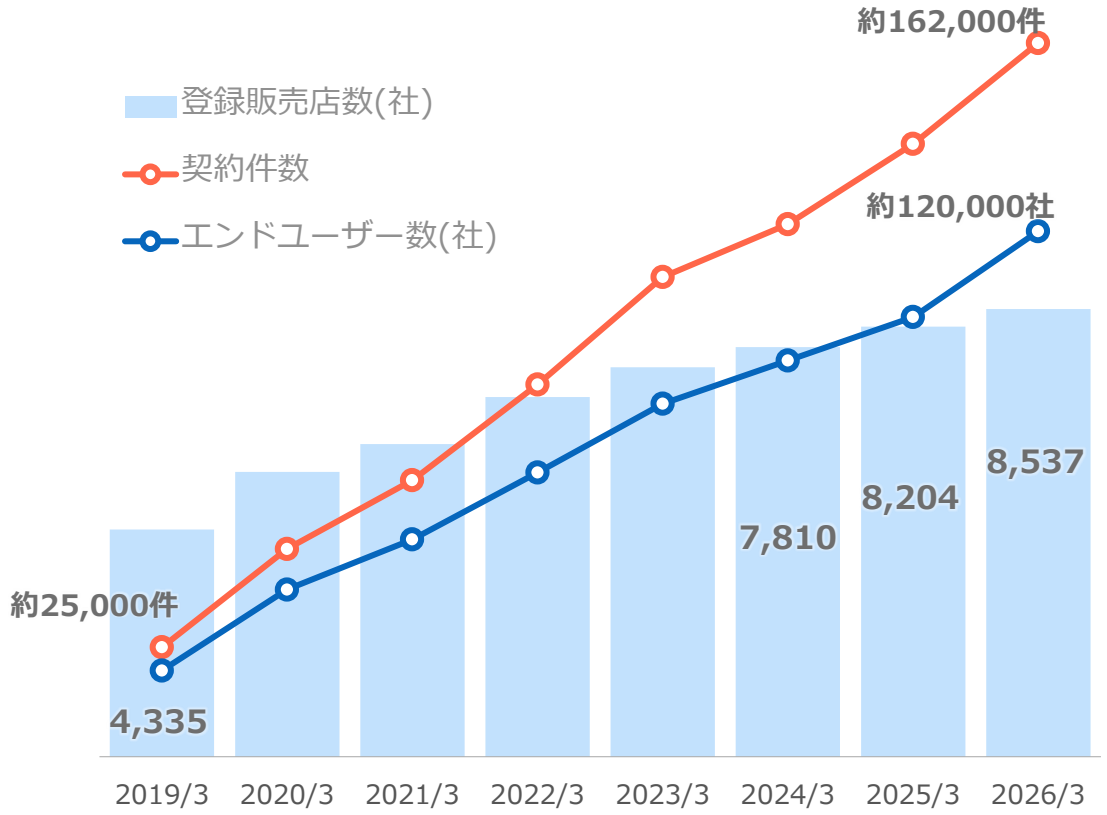
2024/3～2027/3 **CAGR30%以上**の成長を目指す



サブスクリプションビジネスの
市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化



登録販売店数の推移



対応ベンダー数

24社 → 38社 → 65社 → 88社 → 115社 → 130社 → 137社 → **147社**
(2026/3)

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

産業機械事業　事業戦略

オーエム製作所

1 工作機械における売上拡大への取り組み

- **在庫販売戦略の強化**(米国・中国市場における短納期販売の拡大)
- **海外市場の開拓**（有望なアジア地域の市場調査）
- **高精度立旋盤の継続開発・商品化**(航空機・エネルギー業界向け)
- **国内主要業界での更新需要の取り込み**

2 自動機械における収益改善の取り込み

- **生産計画の最適化** (適切な受注リスク評価の継続実施)
- **市場競争力の向上**(ケーサーの販売強化、新機種開発の促進)
- **顧客ニーズに基づく提案型営業の高度化** (食品・製菓・医薬品業界向け)

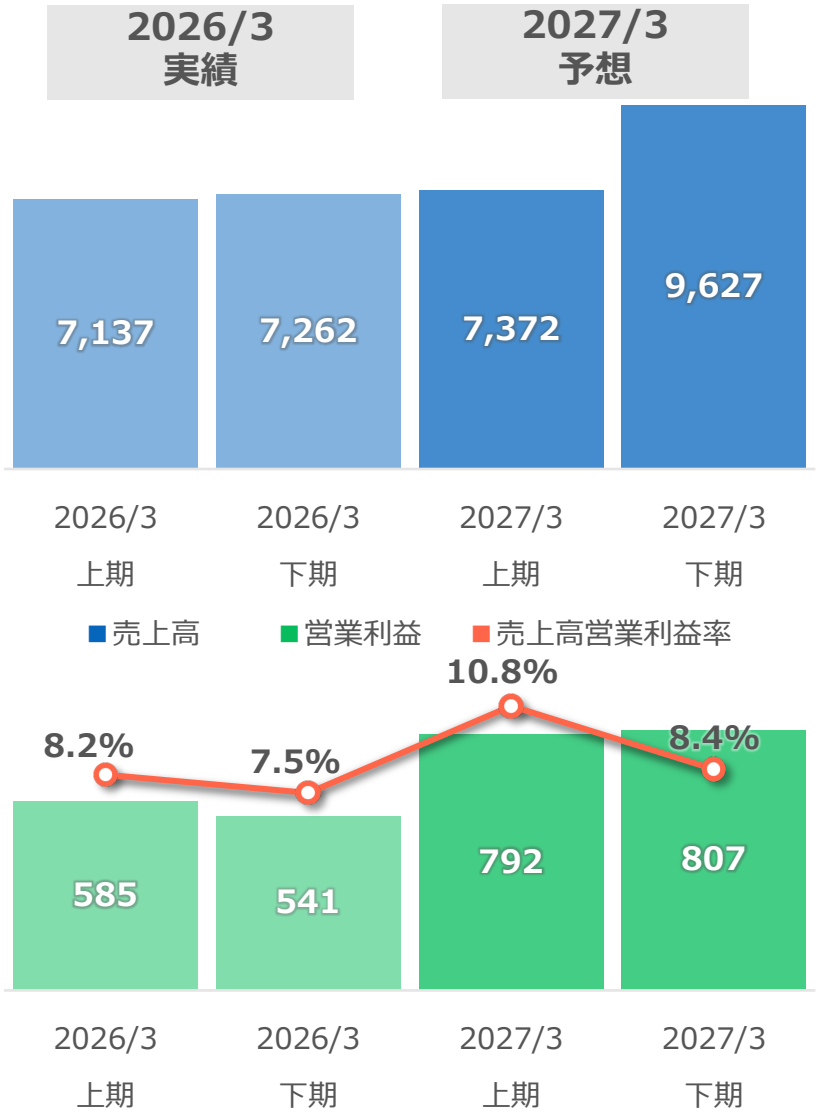
3 サービス体制の強化による収益力向上

- **導入済み製品へのオーバーホール提案**
- **サービス対応の協力企業開拓**

4 人材教育の推進

- **技能教育の拡充による技術力向上**
- **ベテラン知見の継承と若手育成を両立する営業基盤の強化**

（百万円）



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

産業機械事業　― 製品事例 ―

立旋盤



- 中・大型で**国内シェアNo.1**（累計出荷台数**7,800**台超）
- 「立旋盤のオーエム」として国内外で高い評価を獲得
- 工作物を水平方向に回転するテーブルに取り付けて切削する機械で、テーブル径は800～6,000mmと幅広く多様な生産形態に対応し、高剛性・高精度で操作性に優れ、航空機エンジン、風力発電の部品をはじめ、あらゆる分野のマザーマシンとして活躍
- 左の写真は小型汎用機「RT-915」

車輪旋盤



- 鉄道車両のメンテナンスに使われる専用工作機械で鉄道の安全と乗り心地の向上に寄与
- 床下車輪旋盤で**国内シェアNo.1**
- 世界初の車輪旋盤を製作し全世界向けに多くの納入実績のあるドイツのヘーゲンシャイト社より技術供与を受けて国産化、設計・部品・ソフトウェアはすべてオリジナル製作

自動機械





- カートナー（小箱詰機）や、個包装された商品を集積してフィルムで包む中間包装機、段ボールケーサーなど幅広い自動機械を製作（左の写真は横型連続カートナー）
- ライフサイクルが短く多様化が顕著な食品や、製造基準の厳格化が進む医薬品など、変化の激しい分野の包装工程のニーズに柔軟に対応できる技術と発想力が強み

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

参考資料

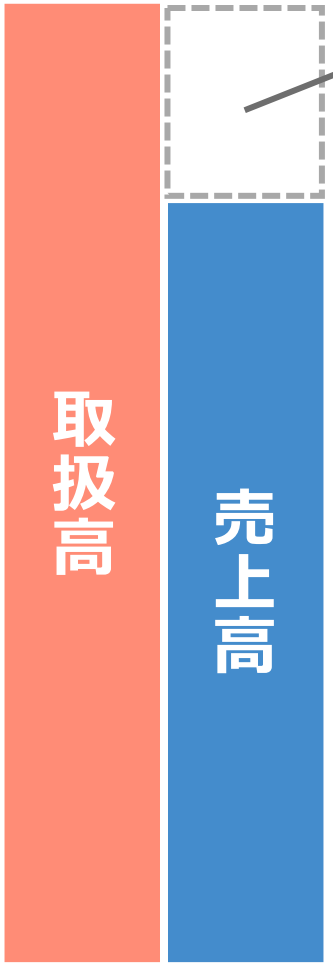
- 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- 事業概要
- ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- 業績推移グラフ

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ITインフラ流通事業の「取扱高」について

取扱高
Transaction Volume

- 2021年3月期以前の売上高と同じ基準で算出
  （＝会計基準変更前の売上高）
- 取引規模を示す上で重要な指標となるため「取扱高」として継続して活用
- 管理会計における営業評価



「**収益認識に関する会計基準**」
適用による影響額
（2022/3期～）

一部の保守・保証サービス、iKAZUCHI(雷)によるソフトウェア販売など、会計基準上の「代理人取引」について、販売対価の純額を売上高に計上

売上高
Net Sales

- 2022年3月期以降の売上高
- 財務会計における業績評価

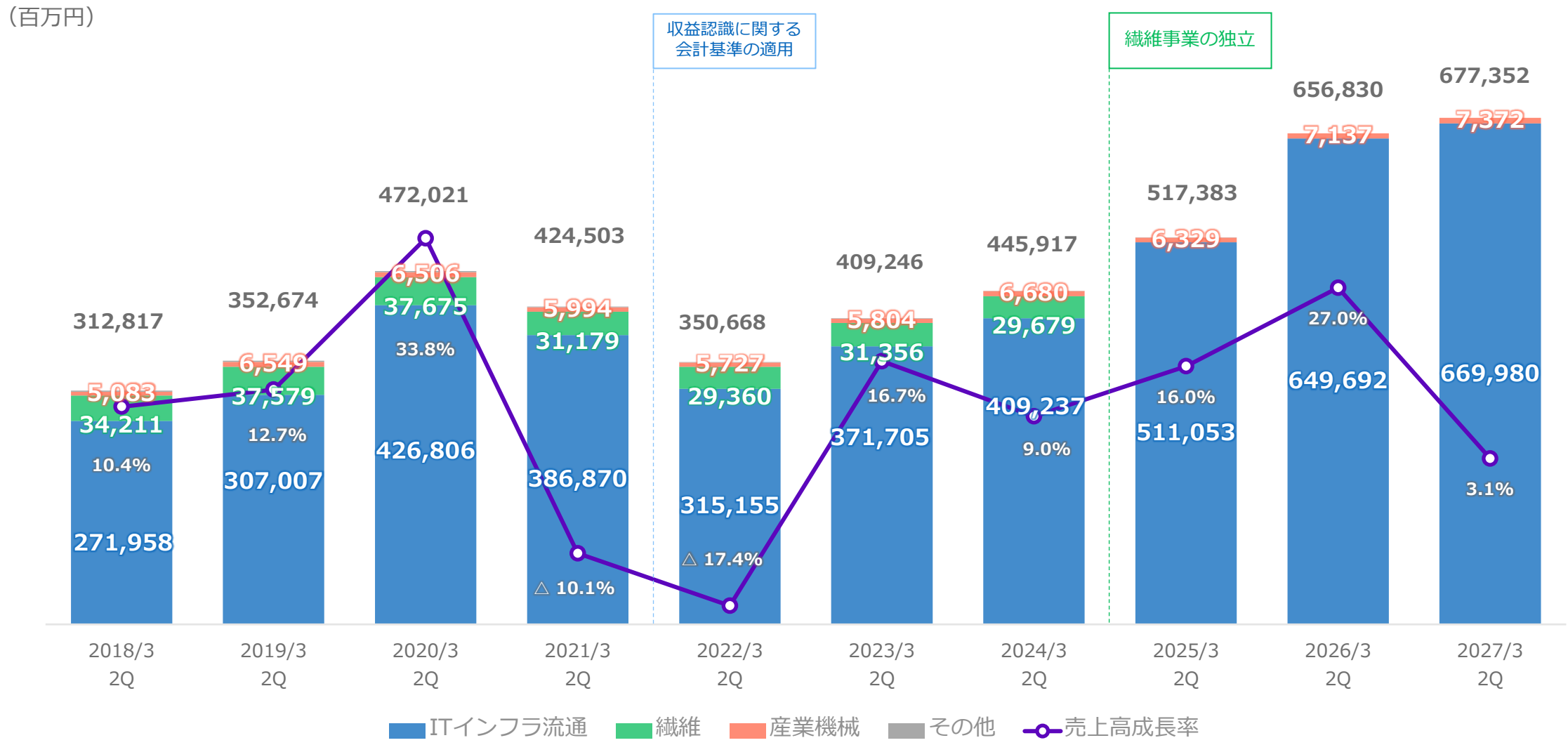
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

参考資料

- 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- 事業概要
- ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- 業績推移グラフ

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

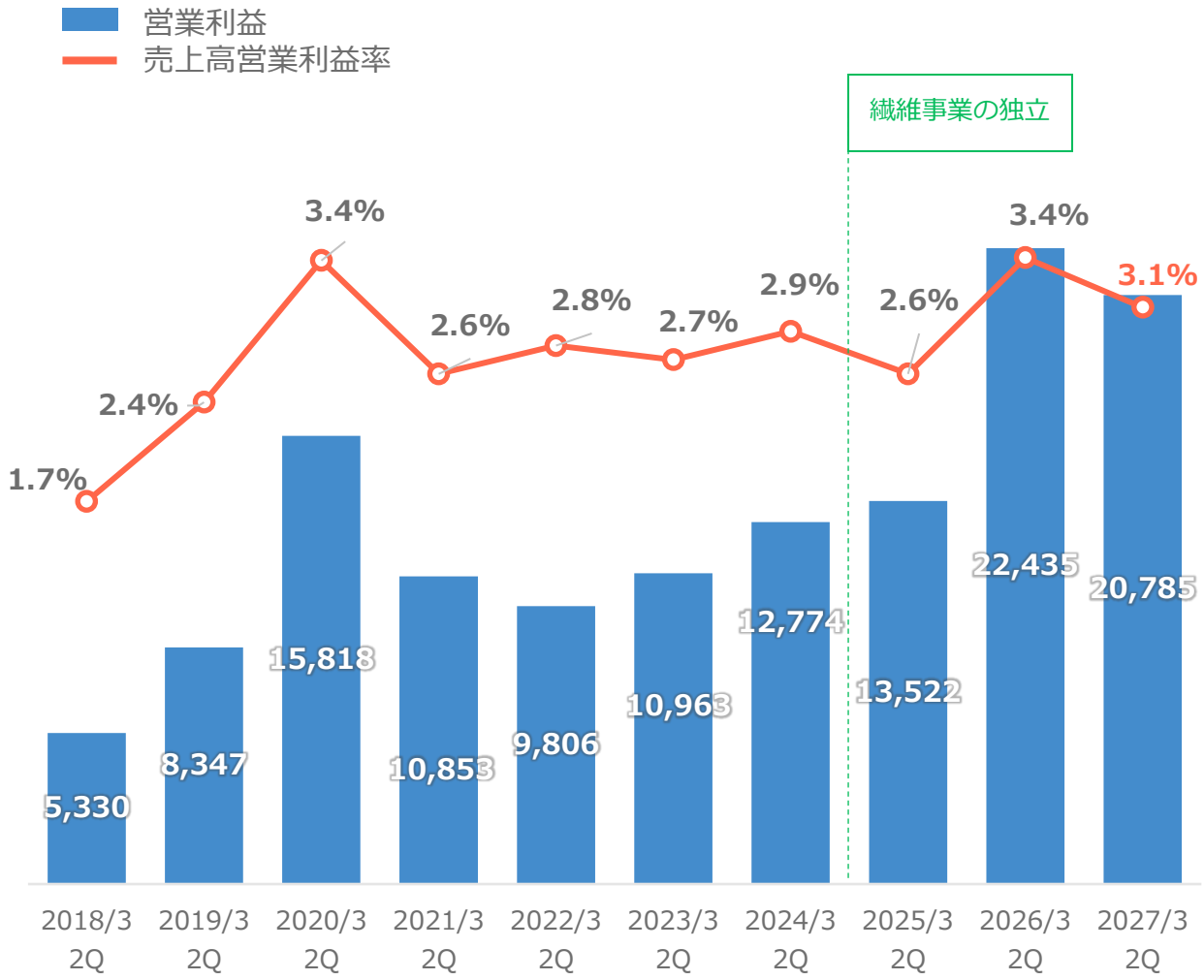
連結売上高（第2四半期累計）



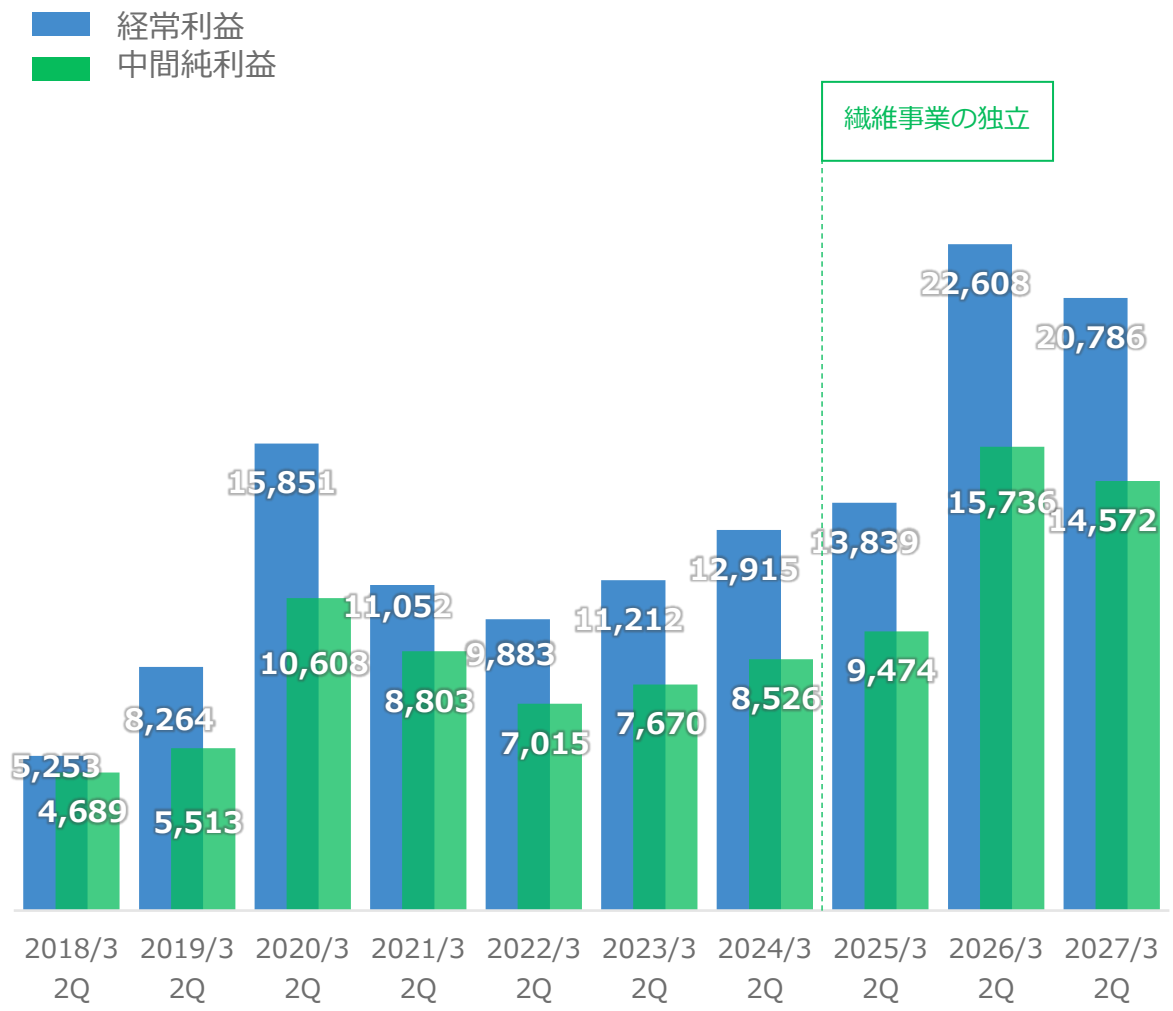
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

連結営業利益・経常利益・純利益（第2四半期累計）

連結営業利益 (百万円)

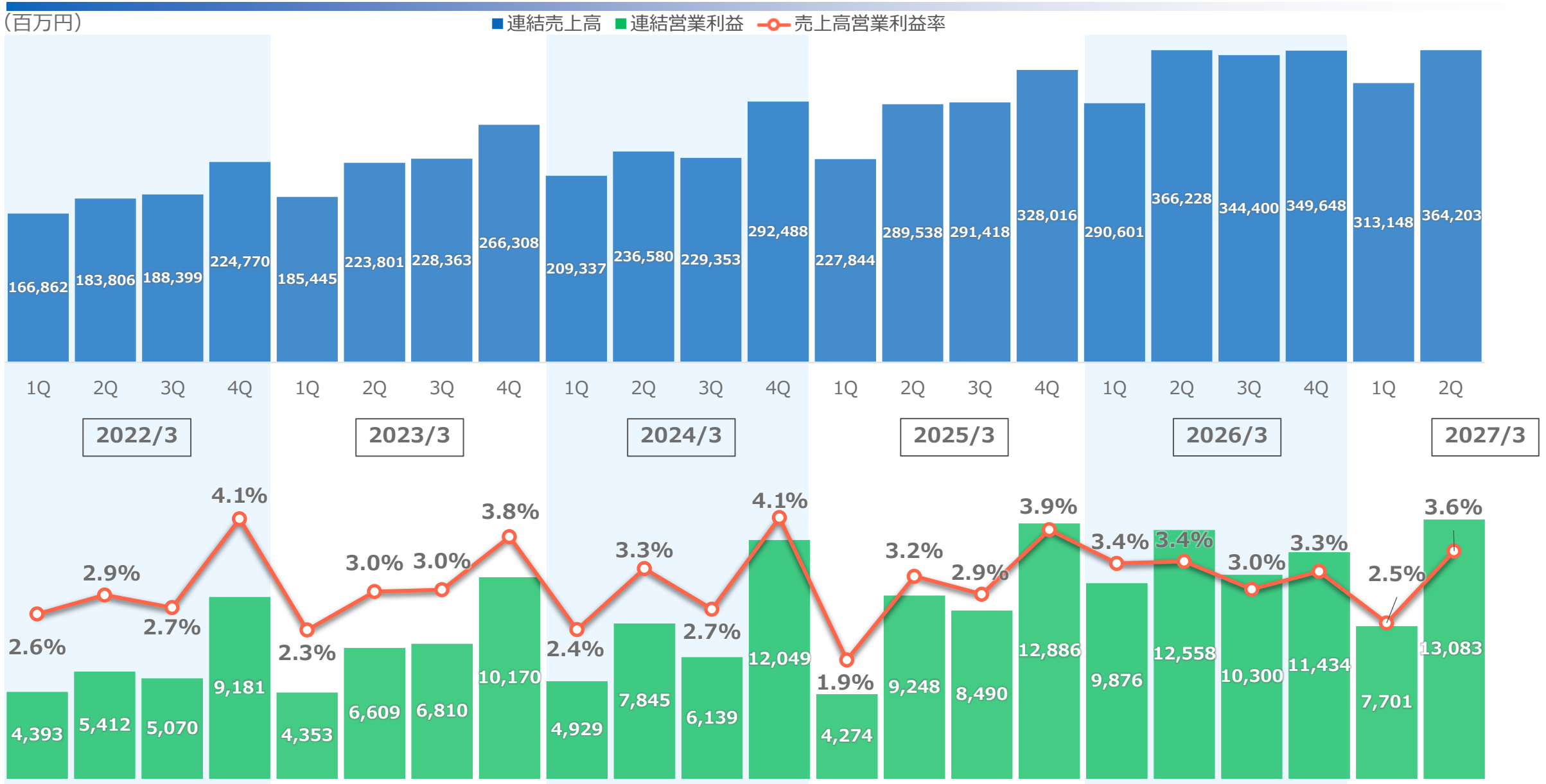


連結経常利益・中間純利益 (百万円)



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

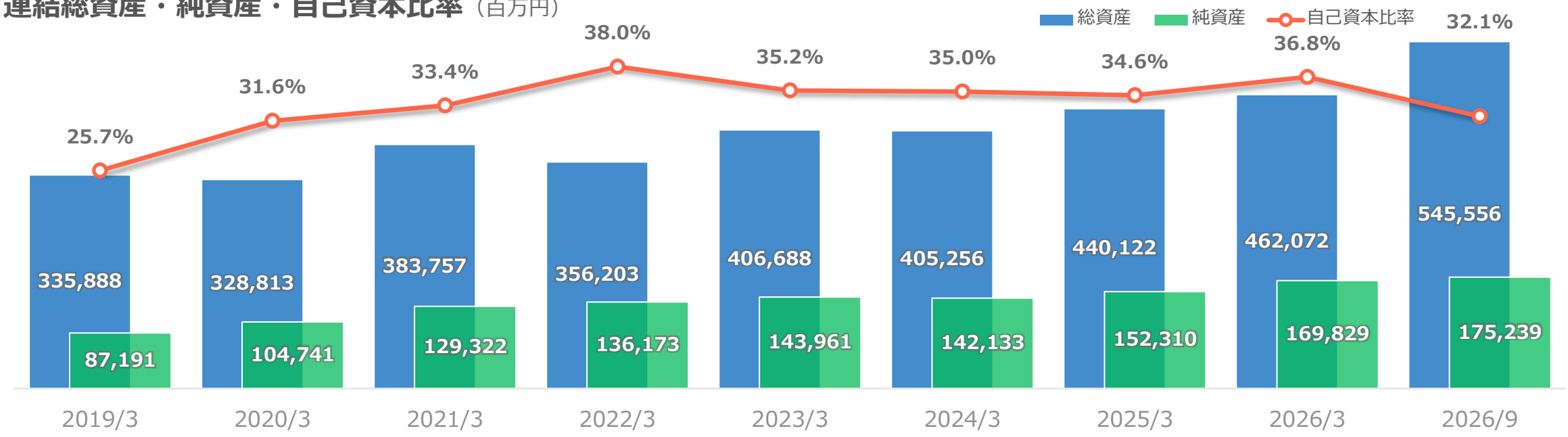
四半期別 業績推移



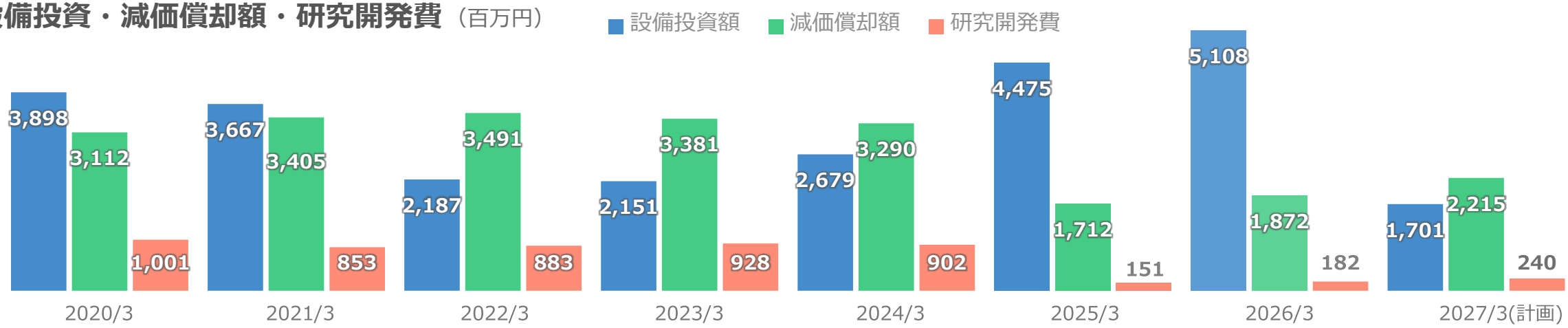
© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

連結総資産・純資産・自己資本比率 / 設備投資・減価償却額・研究開発費

連結総資産・純資産・自己資本比率（百万円）

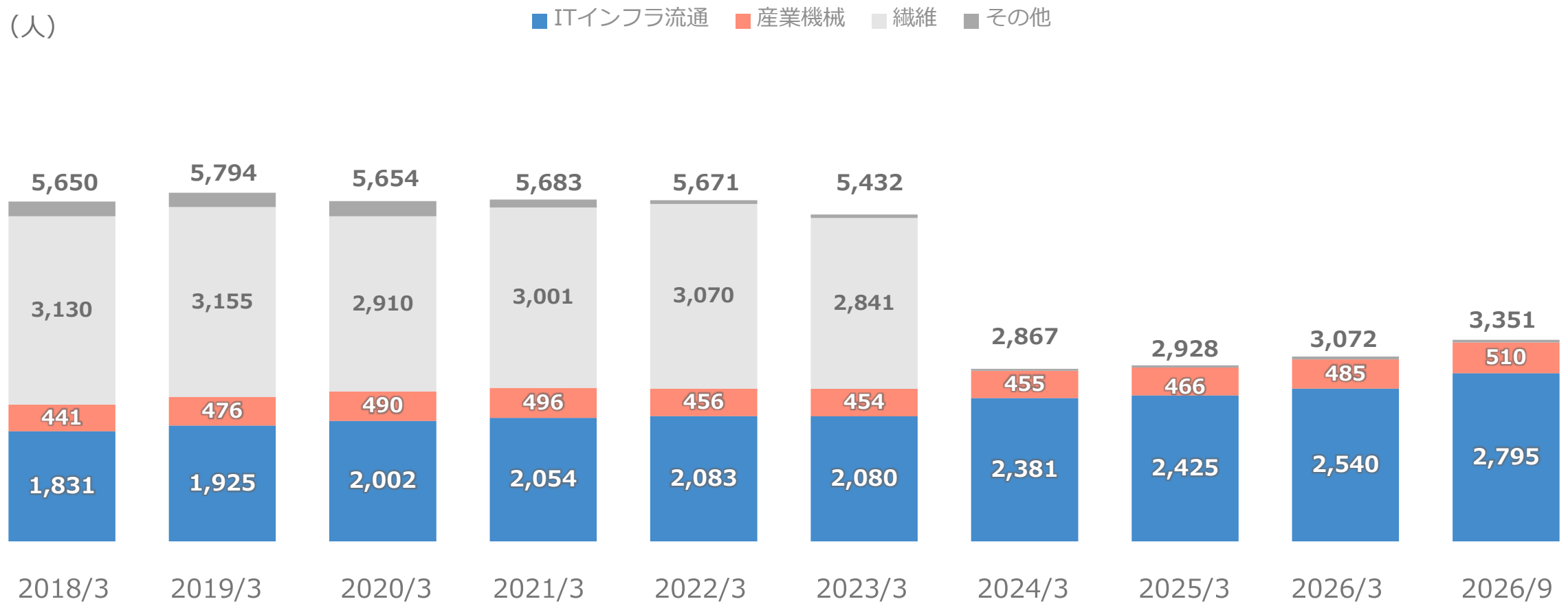


設備投資・減価償却額・研究開発費（百万円）



© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

セグメント別　従業員数



※各期間における最終日時点の人員数となります。

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

株価推移

PBR **1.81**倍（2026/9終値ベース・通期予想）

時価総額 **329,141**百万円（2026/9終値ベース）

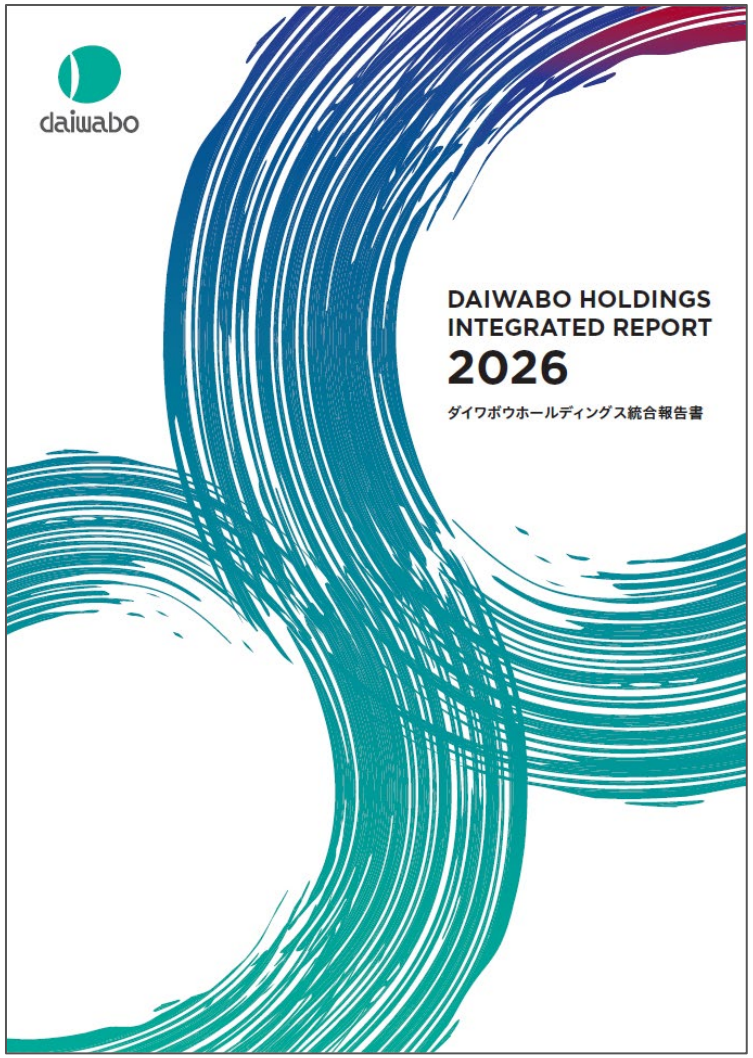




※当社株価は株式併合（2017/10/1）・株式分割（2021/4/1）を過年度に遡及して表示

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

「統合報告書2026」発行のお知らせ



9月24日に「統合報告書2026」を発行し、当社Webサイトで公開しました。

本報告書では、当社グループの価値観やビジネスモデルを基盤にした「価値創造ストーリー」を、わかりやすくお伝えすることを目指しています。

2026年版では、企業価値向上の考え方や取り組みについて、財務情報と非財務情報を関連付けながら表現し、どのように持続的な成長を実現していくのかをお示ししています。

ぜひ本報告書を通じて、当社グループの魅力や成長性、中長期的な価値創造への取り組みをご確認ください。今後も、情報開示の充実を図るとともに、ステークホルダーの皆様との対話を深めてまいります。

ダウンロード用QR

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ダイワボウホールディングス株式会社

本社所在地	〒530-0005　大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト	
設立日	大和紡績として創立	1941年4月1日
	ダイワボウホールディングス設立	2009年7月1日
連結従業員数	3,351名（2026年9月末現在）	
資本金	216億9,674万4,900円	
株式	東証プライム市場　証券コード **3107**　／　業種：**卸売業**　**<JPX日経インデックス400構成銘柄>**	
事業内容	**ITインフラ流通事業** ［中核会社］ DIS ダイワボウ情報システム株式会社	コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売 および物流サービス業 コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業
	産業機械事業 ［中核会社］ オーエム製作所	工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ダイワボウホールディングス株式会社

https://www.daiwabo-holdings.com/

ニュース

https://www.daiwabo-holdings.com/ja/news.html

ダイワボウグループ一覧

https://www.daiwabo-holdings.com/ja/group.html

沿革

https://www.daiwabo-holdings.com/ja/company/history.html

【免責事項】

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。なお、当社は理由の如何にかかわらず、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。

© Daiwabo Holdings Co., Ltd.